江戸名所図會

十一

ル 4
3605
11

門 北 4
號 3605
卷 11

江戸名所圖會卷之四

天權之部目錄

土

市谷八幡宮 茅木稽荷

藥王寺 茅師一水

大窪映山紅

澁谷神社

中野成願禪寺

寶仙寺 大師堂 三屋堰

阿佐谷神明宮

慈宗寺

金井橋 金青花号

神樂坂

圓魔堂

藥王寺 稽荷祠

大窪天滿宮

自證院

淀橋 水車

中野長者昌蓮墓 童樹 二王門 小象株骨

姫の内妙法寺 加持井

牛頭辨財天宮

津久戸明神社

若宮八幡宮

松源寺

月桂寺 安產宝珠

七面大明神社

西逸寺

角筈十二所權現社

安養寺 稽荷祠 八幡宮

諏訪明神社 右ホ明撮

圓照寺 鎮座歌

中野七塔

桃園觀音堂

幡ヶ谷不動堂

大宮八幡宮 鞍掛 楊枝杉

牛込池 楊枝杉

藥王八幡宮 樓掛記表

沙元寺

西蓮院

逢坂

牛込城址

赤城明神社

志賀文庫

昭和十九年四月五日
故三上於菟吉氏及友人
三上蓊寄贈

洗馬山
大友松
幸國寺
感通寺
金川
寶泉寺
百八塚
荒岡山
氷川明神社
落合土橋
木花開耶姫社
海松寺
宗柏寺
頌滿祖師堂
三島伊豆千手觀世音
言田八幡宮
言田稲荷社
言田富士山
高田天滿宮
山吹の里
傍ち橋
右橋
奥州橋
義杜稲荷社
豊後小佐從大友義延舊跡之地
宗參寺
早稲田神明宮
子子院
赤城明神舊地
誓願寺
言田馬場
三島山
姿見の橋
氷川明神社
宿坂関舊跡
泰雲寺
宗良親王陣營旧址
戸塚
和田戸山
言田七面堂
南蕙院
七曲坂
金乘院
一枚岩

落合堂
金剛寺
大洗堰
洞留橋
関口八幡宮
大慈寺
牛天神社
道祖神祠
彩隱庵
小村雪岑翁別荘地
氷川明神社
氷神社
道山幸神祠
本伝寺
宝塔巣先生墓
護国寺
本浄寺
宝塚寺
諏訪明神社
大日堂
八幡宮
目白不動堂
波切不動尊
護持院
清立院
本納寺
法巻川
伝通院
光圓寺
雜司谷鬼子母神堂
雜司谷鬼子母神出現所
法明寺
大沼院
蓮成寺
小石川

本尊薬師如来
玄量院
氷川明神社
猫貓橋
宗蓮寺
清水薬師如来
西養圓橋
十羅刹女宮
石神井城址
藤折里
羅漢田彈正田跡地
宗慶寺
白山神社
十羅刹女堂
子薬家城址
大堂
子薬寺古城址
三寶寺
氷川明神祠
石神井明神祠
宗長寺
西養院
祥雲寺
療病院
庚申塚
板橋原
清水坂
一夜塚
赤塚明神祠
練馬長命寺
愛宕権現宮
題目塚
立野舊跡
十玉院
阿蘇明神祠
野火留
平林禅寺
安松長源寺
狭山
狭山の池
曼荼羅淵
山口邸
新堀玄蕃居住地
東迫
薬王寺
新倉明顕寺
子安清水
大宮氷川神社
戸田川渡口
小手差原
永源寺
八國山
勝楽寺
山口観音堂
小野天神社
久米川
将軍塚
抱間齋夜氏墓碑
山口城之郭田址
還東阿弥陀如来
所澤
羽根権現宮
出川義之塚田址
宮本氷川神社
溝田出羽守資忠城跡同墓
新光寺
焼米坂
調神社
東光寺

市谷八幡宮　市谷御門の外よりあり　別當ハ東圓寺と号す　南紀高野山金剛峯寺ゆ属して古義の真言宗なり

本社祭神　應神天皇　中胄の神躰　相伴ふ多田満仲崇信あり　靈亀中往古摂州多田の廟よりこゝに太田持資こゝ

佛ハ愛染明王なり　東ハ神力皇后　應神天皇の母君　西ハ妃大神　天皇の伊勢君　室満菩薩　三

神鎮座　稲荷祠　當社地主の神　石階の中段左の方よりあり　世俗茶木

稲荷と称す其来由信ふたるなし故ふこゝに略せり

神の産子ハ毎歳四月元三の間茶を飲ぜ眼疾を患ふる者ハ一七日又三七日と日数を

定めて茶を断ち祈願ハ霊験いちじるしと云

諸の願ひ成就せざるなしと云

社記曰　文明年間太田持資江戸城擁護のためゆ相州鶴岡の八幡

大神を勧請し山林及び神田多若干を附し東圓寺を創建

山号を稲嶺といハ此地の稲荷の社あり地主の神と又自親松推ゆ

也　鶴岡も曰稲荷の社地なり　蓋此例ゆ本くと云

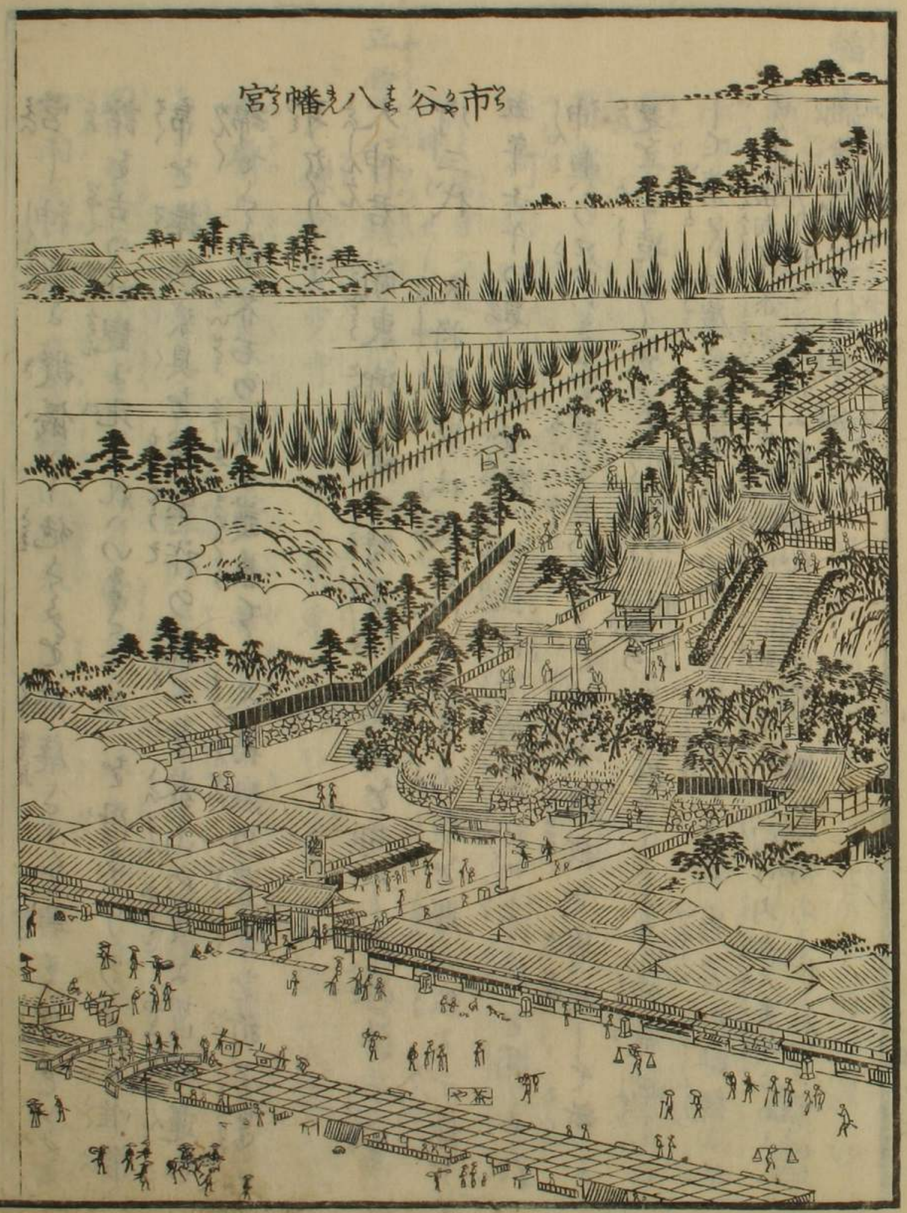
樹を栽く社木とし社壇城廓とゆふ繁栄ゆんるを祝也　土俗道灌松と号く

枝葉繁茂して今尚存也

後天正年間の兵燹よ罹て破壊せしを慶長年間

別當源空必僧都此頽基を憤激し己ゝ餘鉢を傾け百歩許の

遺址を點撿し艸を結ひ檐とし水を伐く扉とし一宇を再



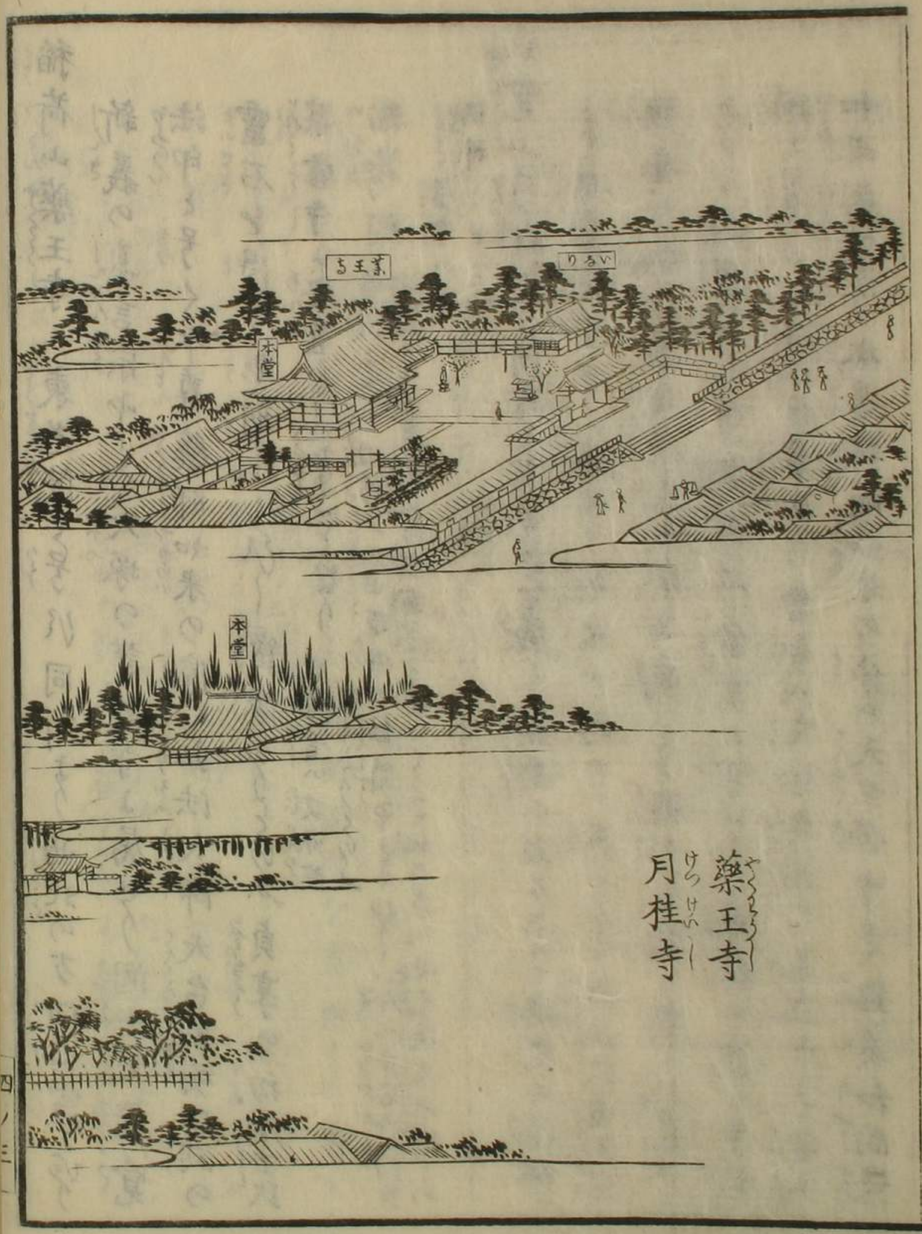
或人の説に市谷昔八市の立し地なり故に
市買に作りしなりとの人然れども
按に鎌倉鶴岡八幡宮に蔵する所の延文
三年十二月廿二日の基氏の古證文に鶴岡
八幡の雜掌任阿申武蔵國金曽木
彦三郎市谷四郎名のり江戸氏路守
押領を止む正和元年八月十一日の
寄進状に任せ社家に付て
沙汰せしと
云へり證とも
社地に戚臺
楊弓の類ひ
ありしなり
眼しに又社
前の大路に
四谷への
往来の
行人
俗俳

営し神殿を擬し絶えたるを継廃れたるを興せ然もとゝも
諸を古の壮観に比べれば十之一を得たるのみ わゝかを唯幣
帛を捧け楽具を盛宝祚の萬くを泰山の安に置武運の
綿くを芥石の長に護兼て又萬姓の豊楽を祈るなる
耳なり

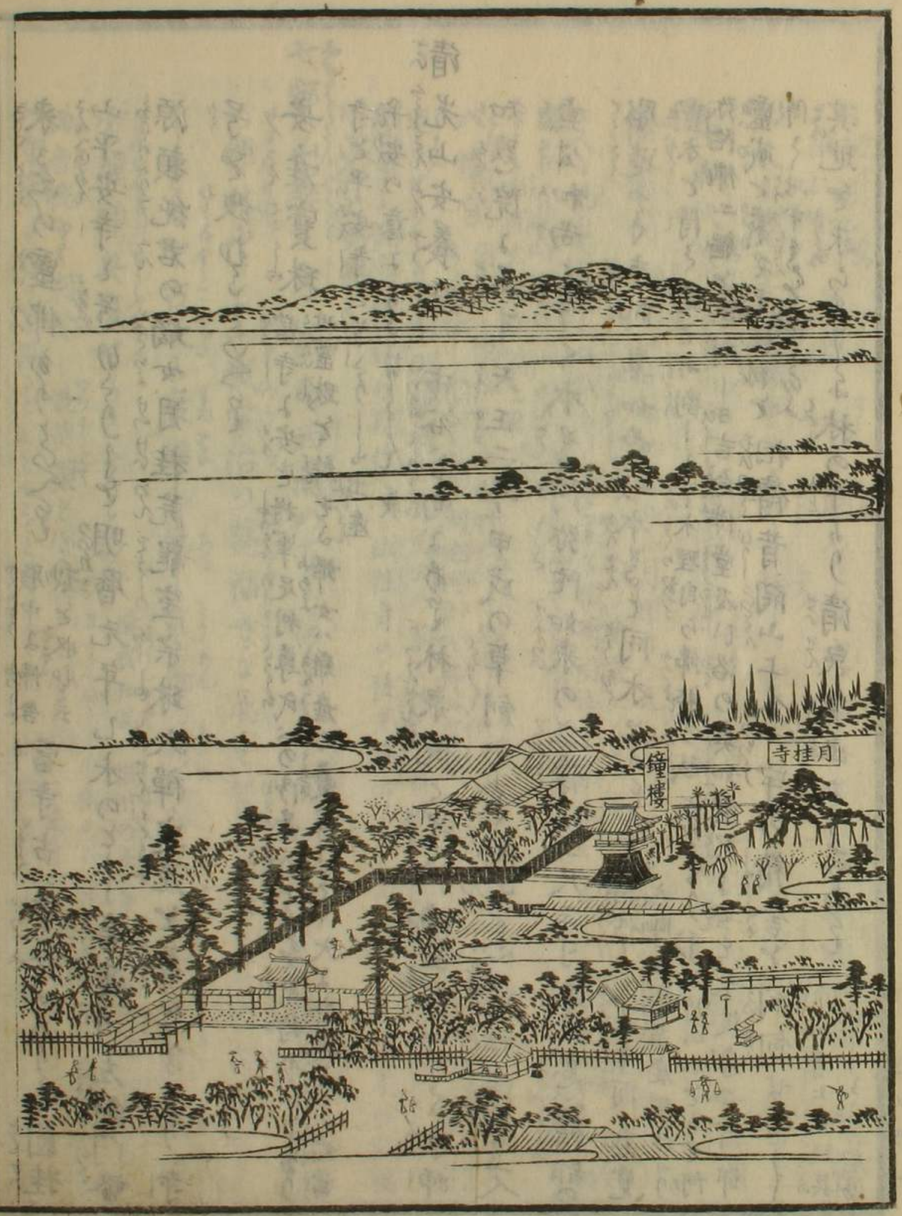
大神君 朔東御入城の時当社の来由を問ひ給ふ後
御三代 大将軍家社領を附せ給ふ朱墨を賜ふ然に元禄十
五年壬午の夏 贊母従一位桂昌院殿当社の事蹟を聞しめされ
神輿の足らざるを憾に思ひ給ふ黄金数枚を寄捨して新に
是を奉造なしたまへる 神輿全く備はる 三基の
して著く社殿の経営も又いらしく輪煥として宿昔の壮観に倍
せり 南向亭茶話云く市谷八幡宮の旧地は市谷伊門の内今大番所のあるなり北の方の向ふ角山本氏の邸の隅に榎の大樹あるこれなり寛永年間今の地に遷し奉る榎を神木と称せり

稲荷山薬王寺 東光院と号し同所より西北の方河田窪にあり
新義の真言宗にして大塚の護国寺に属せり開山を澄覚
法印と号く本尊薬師如来の像は弘法大師天台四明の洞の
霊石を得て彫刻し給へる霊像なりとて貞享の初須田氏
某当寺に安置なし 当寺昔は愛染院
稲荷祠 境内にあり 相伝ふ太田道灌の勧請なりしかは今の市谷伊門の辺にありしとあり元和の頃当寺より二丁ばかり北の方へ遷せり後又此地へ
法神と称せり 当寺の護

正覚山月桂寺 同所三丁ばかりを隔て西南の方にあり清家の禅林に
して鎌倉圓覚寺に属せり開東十刹の一員にして渋江氏通玄院
徹齋の創立喜連川家の香華院なり總門に掲る額に正覚山と
あるは南禅寺の普済禅師崇寛の書なり鐘楼の額に華應
閣と署せるは香山侯書なり当寺は文禄年間の基立にして雪山
和尚開山なり本尊釋迦如来の像は天竺佛ゆゝく鑑真和尚携



藥王寺
月桂寺



来るとの霊佛ありとぞ腹中より佛舎利を収むと云 当寺古ハ市谷よりく圓桂山平安寺と号けるしを明暦元年乙未のとし喜連川左衛門督源頼純君の嫡女月桂院龍室宗珠大禪定尼を葬せしより寺号を改むるとぞ

安産寶珠 当寺ハ安也将軍足利尊氏公の臺所ことを所持ありしとあり寺を平安寺と号しころしも出産霊珠を拜する婦女ハ難産の憂なしとく大ハ崇敬せり始当平安の意よりなるべし

清光山安養寺 市谷谷町より林泉院と号ハ浄土宗ゆゑく京師知恩院ハ属す 天正二年甲戌の草創ゆゑく閑山を心蓮社深誉上人貞公和尚と号く本尊阿弥陀如来の立像ハ三尺三寸あり恵心僧都の彫造あく京師真如堂の本尊と同木なりとぞ 相伝ハ天長年間慈覚大師江州苗鹿明神あり一片の木を授せり霊木を得て是を打割しハ平木理自ら佛躰の形をなせり阿弥陀佛二軀と彫刻し一日吉念佛堂及い洛の真如堂ハ安也ハ後恵心僧都霊感を蒙て霊木を飾材と相傳昔閑山上人一宇の精舍を刑創せんとし得ゝく此所を造るとぞ 其地を求らもとしふ林の下より清泉涌出もくあり

公館の内ハ入とりく 又傍ハ小き洞ありく中より一疋の白狐顕ハ出くく深誉上人ハ見えて恭禮せるハ如し依て霊地なるを推知しを地の主島田氏某ハ乞得て其地ハ梵宇を建るとなり 明暦二年丙申此年今の地へうつるとぞ

稲荷祠 境内ハあり万治元年正月朔日の夜白衣の老翁住侶秀誉上人の夢に見えて告ていハく白狐ハ直ハ稲荷明神ハ勧請ととあり又頃此地ハ宇田国宗俗ハ面火防稲荷と称せ鍛冶居住しころるゝ深く信此神の加護ハよりく火災を免れり

八幡宮 同しく境内ハあり雲州の尼子伊豫守経久城内の鎮守ハ崇めくしを故あり造立せりとぞ 後月輪殿下兼実公の家ハ伝へを経久城の鎮守ハ定朝の作ゆゑく治安元年詔を受て当寺ハ後寛僧都の持仏ハ法性寺の後光佛ハ洛の壬生寺同木の地蔵を安置す

七寶山藥王寺 同所西南の方ハ ひりく五間四丁斗ハ隔て黄檗派の禪林ゆゑて山城宇治の萬福寺ハ属せ昔ハ真言宗の古藍なりしとも中古大ハ衰廃し絶ハ草庵の形のゝなりしを元禄の頃凌雲禪師與復せるとぞ 凌雲和尚ハ信州の産なり武田典厩の女の腹ハ生して典厩の外孫なり同國小諸曹洞宗海音院ハ剃髪し後黄檗とある江戸ハ出ハ所ハ新ハ一宇の寺院を新建せるハ官禁ゆゑく寺院を謀るとぞ

大窪天満宮

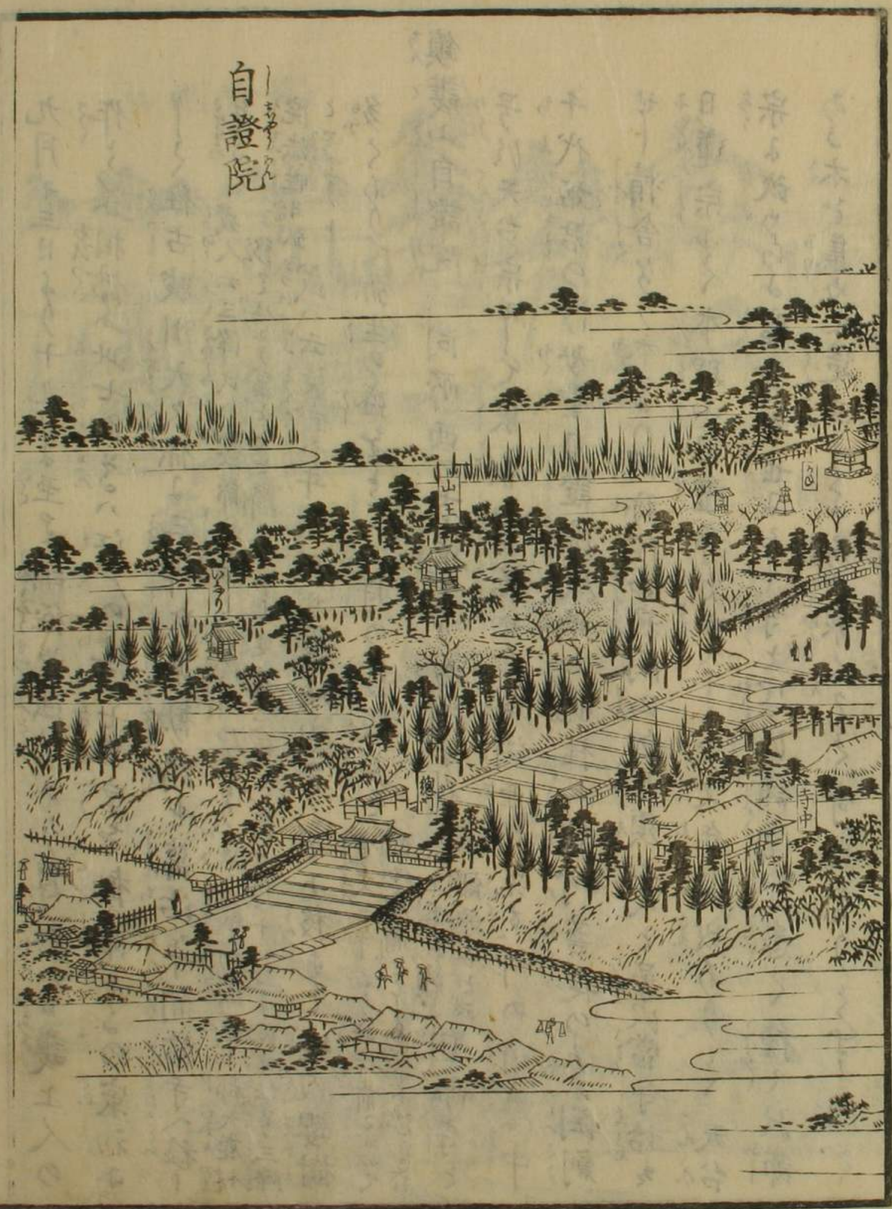
社壇西ハ向ハ左ハ西向とゐひ又ハ東の天神と称せ
ましとも東の東由
ちく〳〵に境内
もこゝ幽邃あり

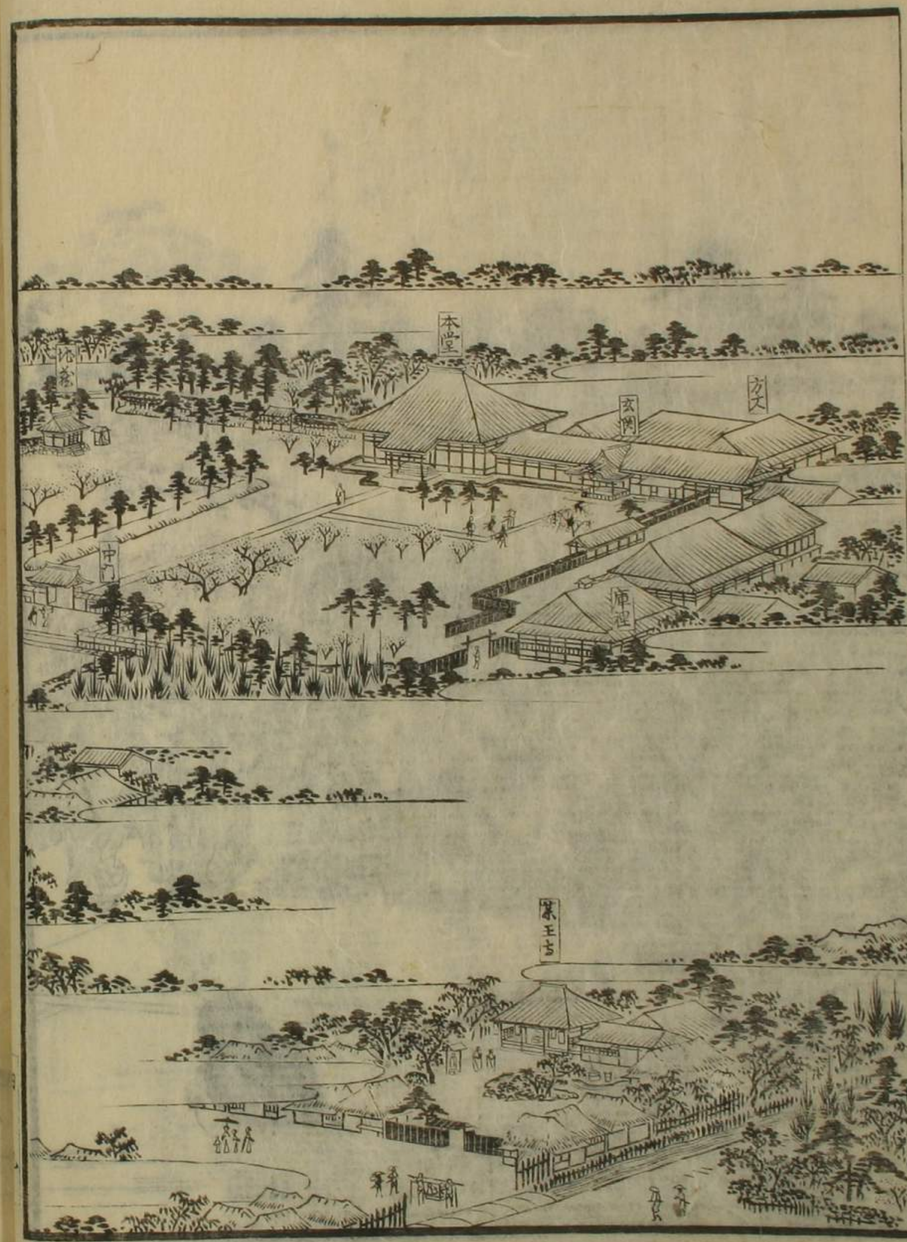
くかりそれとも其德の至るるや竟に免許あらしゝハ江戸の中八箇の庵室と雖もの
遂く一寺とある青山の海花寺深川の勸祥寺等なりとして其中ありとして行基菩薩創建
一木藥師如来同境内に安置せ田ハ赤坂一木の地に立せるハ今ハ人絶と書り
大窪天満宮　大窪にあり一寺の鎮守とす祭禮ハ六月廿五日なり別
當ハ梅松山大聖院と号して聖護院宮の直末本山派の江戸役所
中て大先達なり當社を世に東の天神或ハ西向の天神とも称せり
社壇西に向ふ故に云ふなり　相傳ふ安貞年間梅尾明恵上人の勸請やて
東と称する来由なり
明慶覚運等是を奉祀せ後又太田道灌神田を寄附す然るに
天正年間兵燹ふかくして烏有とあり頃て神躰溪間の櫻の枝に
移る止りぬ其木を瑞現櫻と号く此時青山氏某郷人と共に謀て
今ハ枯たりしと云
祠を經營せ聖護院宮道晃法親王東國下向の時大僧都元信
をして當社の別當たらしむ
典綿ことくく怠るなし
七面大明神社　同東の隣日蓮宗春時山法善寺に安置す祭礼

諏訪谷村（すはやつ）

諏訪明神社

春くれば大久保の映山紅ハ
弥生の末ハ盛とぞ
長丈除のりの穀株
あらく其紅艶を愛
するの紫こゝふ群遠そ
花開微かといへとも
叢り開く枝莖を蔽ひ
さゝに満庭紅と灌
う如く夕陽ハ映して
錦繡の林ハ又ひ
此辺の壮観
なるへし


自證院
山王


本堂
玄関
玄関
中門
常住
常住
常住

九月十三日より十九日に至て誦経説法等あり尊影八日護上人の作なり相傳ふ此七面宮は江戸の地に七面宮を勧請せるの嚆矢ふ

しく往古駿州大久保に三澤氏某勧請せ萬治年間當寺へ移し

せると　或人云三澤氏ハ小次郎政廣と云ふ駿州の人なり後に駿河國富士郡大鹿村に移て住す富士十七騎の一なり延慶二年己酉五月十八日に没せ法号三澤院法性日弘　或ハ云延寶年間甲州身延山よりこゝに移せと境内櫻樹と号すと

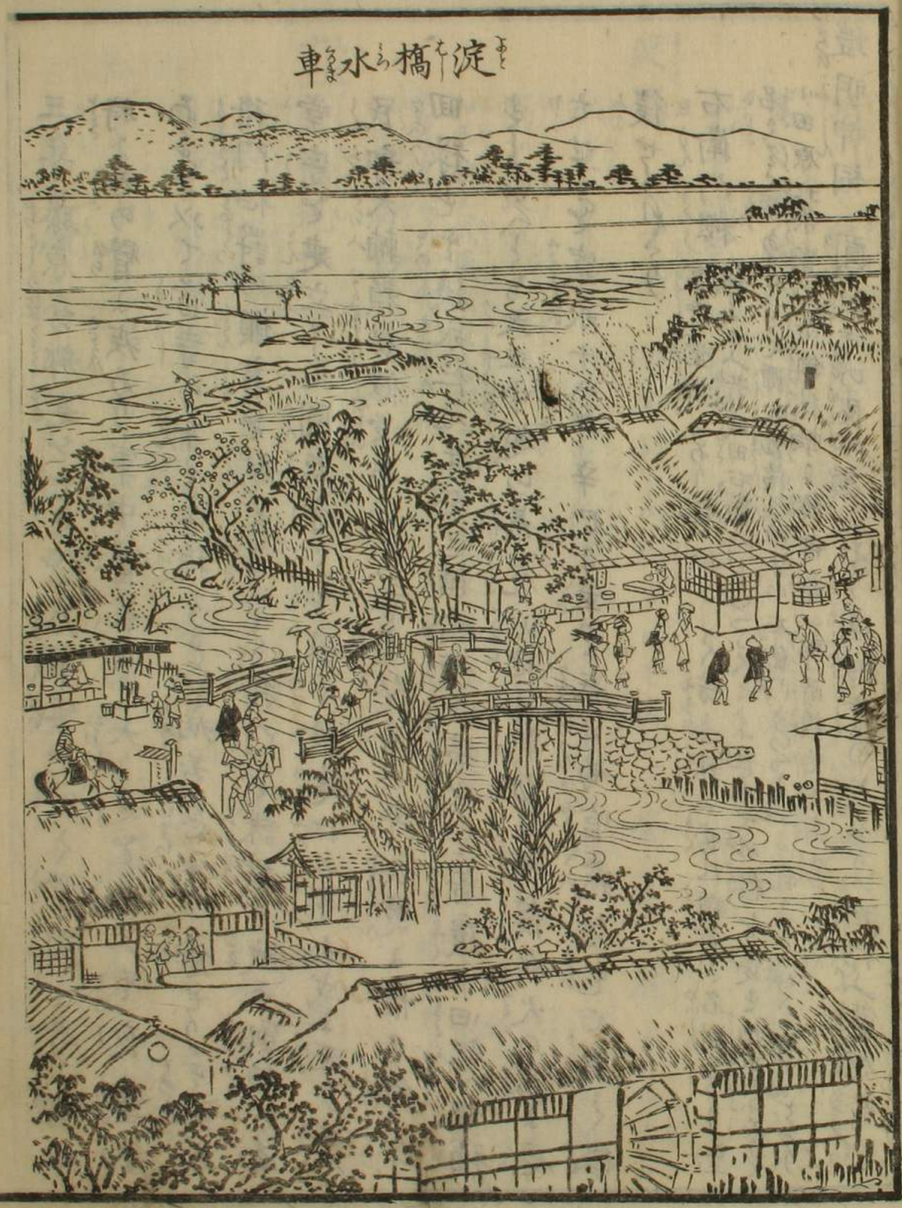
多くありて弥生の盛をゝて一時の奇観とも　寛文三年より此神前に於て常住賣補をなし永世の地とむ　土俗此所を圓融寺と饅頭谷と云

鎮護山自證院　同所西の方道より右側にあり

号ハ天台宗にして東叡山に屬せり尾州亜相光友卿の御簾中千代姫君の御母堂自證院殿光山曉桂大姉御菩提のため開創せし精舍なり本尊ハ阿弥陀如来開山を日須上人と号ハ當寺始め日蓮宗にして本理山自證寺と唱へし元文年間故ありて天台宗に改めらる當寺を世に普寺と字ハ諸堂宇悉く種々ゝ節ある木を集めて造立しるを見ふ衆人ひとく奇異なりとす因て

柏木邑
右衛門
櫻

此所あり蜘蛛の井とゝ云ふ當寺の境内よりあり来由ハ誌せ堪へす
こゝ略せ肯ハ山林ハ櫻多くゆ一由諸書ハ見えたれとも多くハ枯
失せ今僅ハ古木二三株存せるのみ
紅葉山西迎寺　同巽の方二町ばかりを隔て四谷北寺町よりあり　浄土
宗ハ増上寺ハ属せ往古　太田持資の臣伏見勘七といふ人の
草創なりしかとも旧ハ御城中紅葉山の地よりしを天正の後此
地ハ移せしハ本尊阿弥陀如来開山ハ儀蓮社仁誉上人　存公
和尚と号せ
醫光山圓照寺　瑠璃光院と号ハ柏木村よりあり真言宗わ〳〵く
田端の與樂寺ハ属せ本尊薬師如来の像ハ行基大士の作脇士ハ
日光月光の二尊なり又左右の壇上ハ十二神将の像を安置相伝ハ
醍醐帝の御宇理源大師の法弟筑波の貞崇僧都此像を此地ハ
安置しなるとゝ云ふ兼平二年壬辰平将門威を東関ハ振ふ天慶


淀樵水車

淀キハ成子と
中野とのあ
ワくぜり大樵
小樵わりて樵
より此方ハ水車
田溝ハ水ハ山城の
淀川ハ準へく
淀樵と名
付へき名
台命あり
より名とも
といへり大樵の
下ど流れ
神田の
上水
堀
あり

三年藤原秀郷是を亡さんとて軍勢を帥く當國中野に至る時に右の臂に疾あり軍中醫薬なく大に是を憂ひて夜靈示あるを以て當寺の本尊に祈るに病苦忽に平愈せり時又將門征罰の願書を献じ果して將門を誅戮せ故に凱陣の後堂宇を建立して圓照寺と号ひ後建仁二年壬戌に至り江戸民部大輔頼助修営のことも弘安八年兵燹に罹て佛宇回禄せ後永仁元年癸巳頼瑜僧正茅宇を葺覆し旧記を修補もとよりも天正中越の景虎此地に戰ひ頃復兵火の為に廢亡せしを寛永十八年辛巳に至て春日局官裁をもて重く修復せ給へり

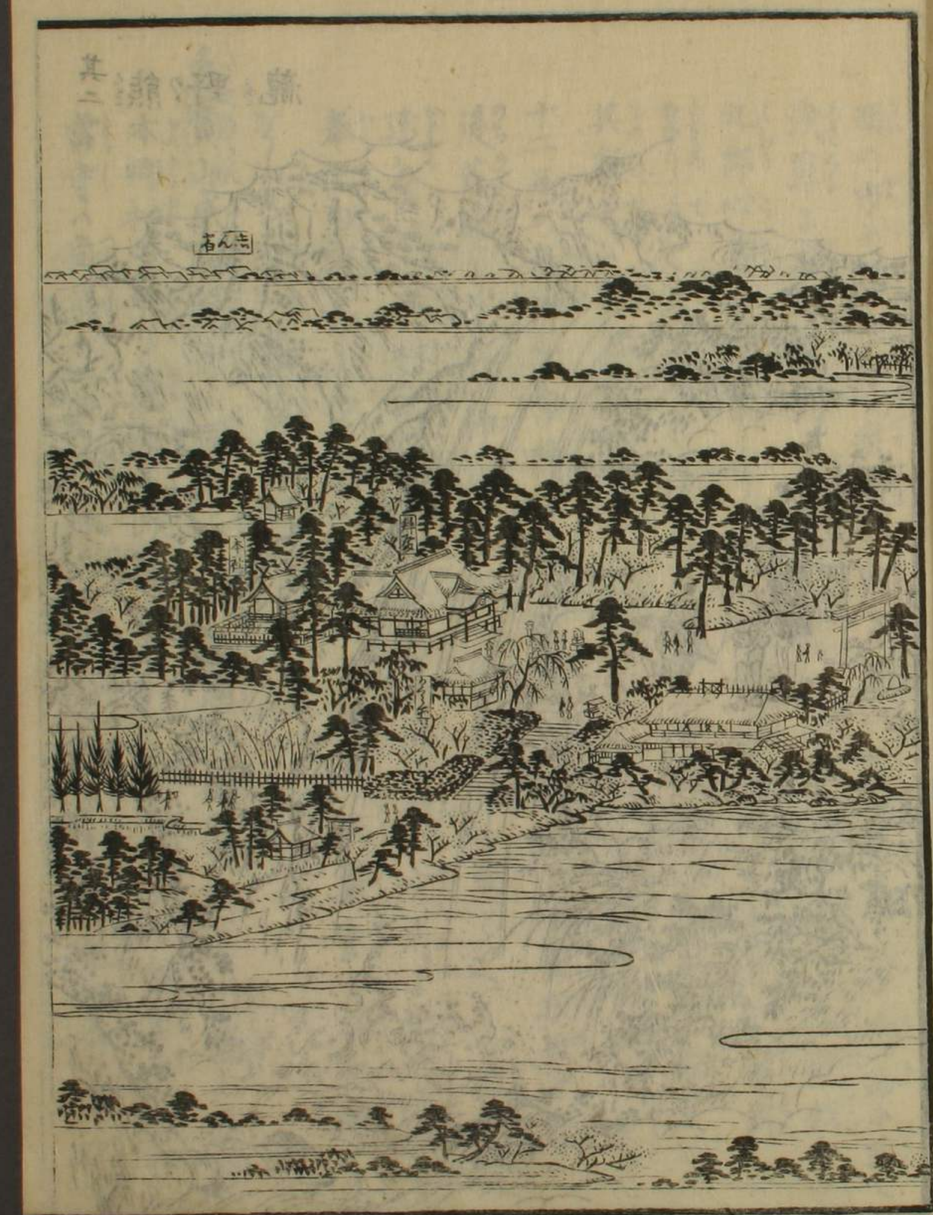
右衛門櫻　當寺堂前にあり單瓣にして芳香殊に勝れ類なき名樹なり里諺に云ふ昔武田石衛門と云ふ人こゝに住んで此櫻を愛せ拍木村にありて名を櫻の右衛門と云ふ名に就くかく呼しとあり源氏物語の拍木の右衛門と云ふ名に就くかく呼しとあり小田原北条家の所領役帳に徒部惣四郎所領拍木角苦

鎧明神祠　圓照寺の艮の方にあり圓照寺の持あり相伝に藤原秀郷

將門を誅戮し凱陣の後將門の鎧を此地に埋蔵し上に堯倉を建て鎧明神と称せ社前に兜松と称ふる古松あり是も其兜を埋ふる印と云

淀橋　成子宿と中野村との間に架せ大小二橋あり橋ふり此方に水車あり昔大將軍家此地に御故鷹の頃山城の淀に準擬此橋を淀橋と唱へき旨上意あり因て号とすとあり或人云淀橋は和名抄に武蔵國豊島郡に餘戸と云ふ村あり此地は豊島郡と多磨郡の中間にて上古の餘戸橋と唱へしかんとも是非を弁ずあり旧名は面影の橋姿見すの橋なとも呼ふしかるに

十二所權現社　淀橋の南角苦村にあり祭神紀州熊野權現に同し本郷村成願禅寺奉祀の宮なり社記に云應永年間鈴木莊司重邦に後裔鈴木九郎某なる人あり紀州藤代に住りしに流落して此中野の地に移て住す熊野權現は産土神なるより宅の辺の丘陵を開きて小祠を営む信深にして然に九郎成時北總葛



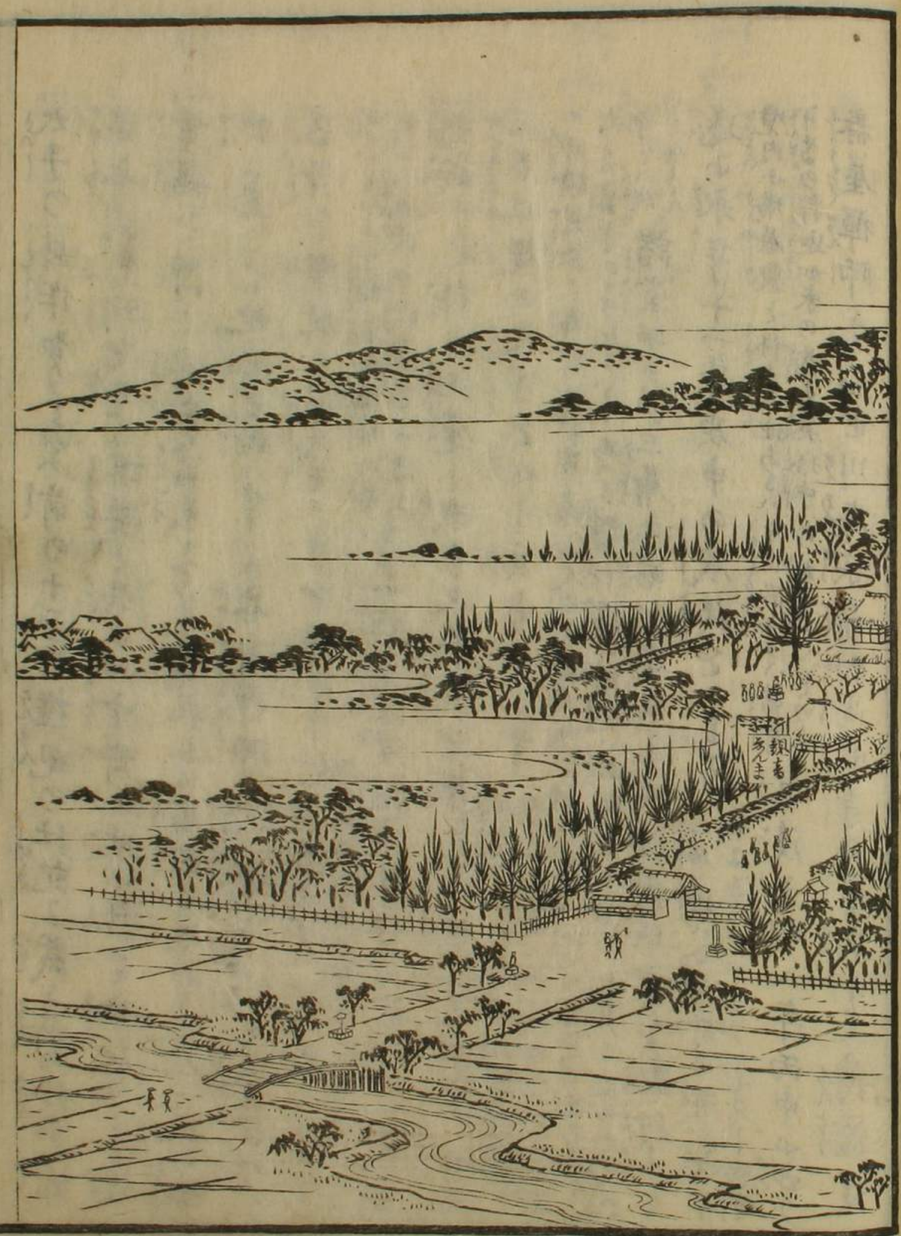
角茗村
熊野十二所
權現社

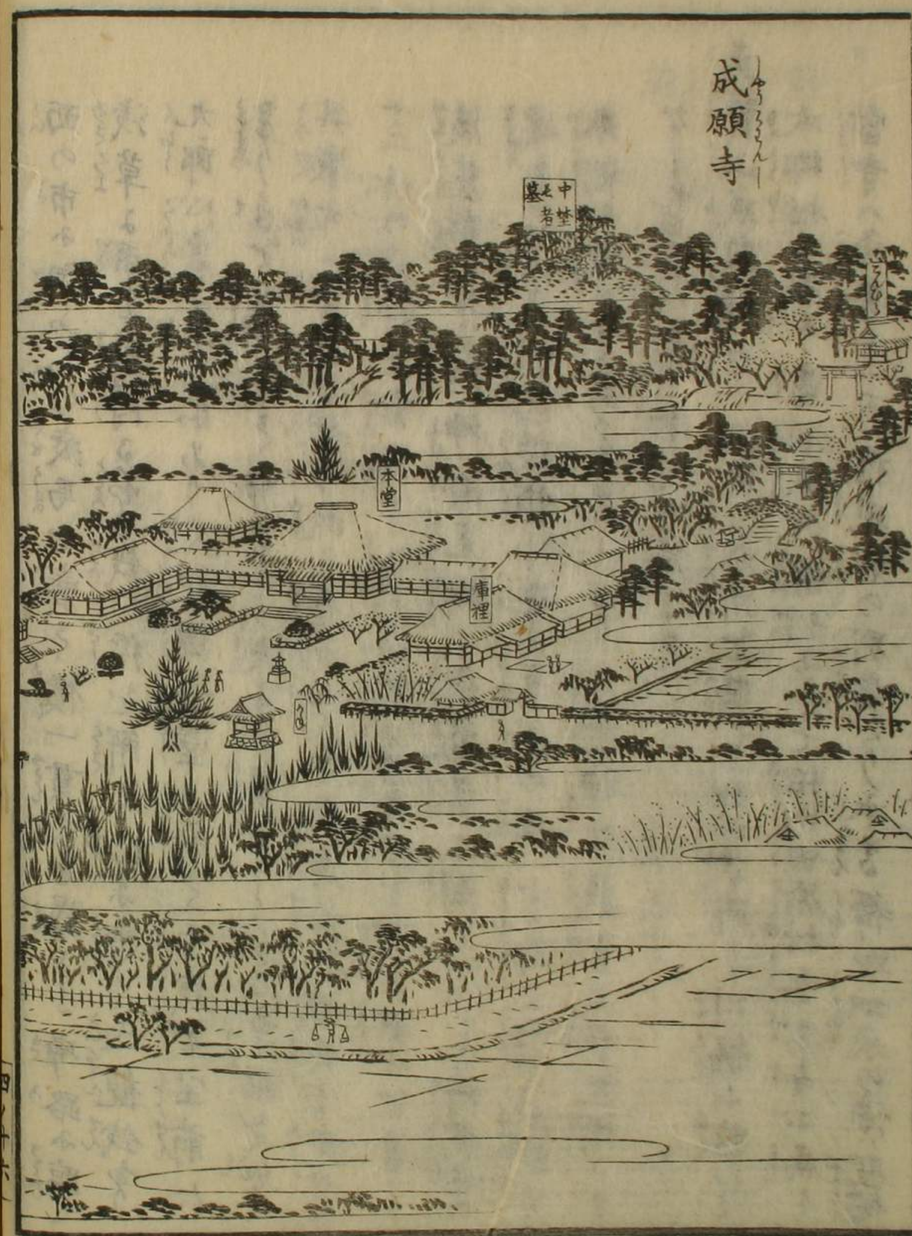
世人誤く
十二所と
なす景ま
して遊觀
す

其二
熊野瀧

西の市に飼ふ所の疲馬を賣て價一貫文を得て帰路に臨て浅草に至て其得る所の銭の緡を解てこゝに悉く大觀銭あり九郎心裏に思ふ所あらく即觀音堂に詣て銭を宝前に投りて空しく帰て夫より後たゝまる幸福を招く其家大に富をなせり故に應永十年癸亥社を再興し更めて十二所の淨神を勸請し田園等若干を附て数世を歴て後荒廃に帰す人神燈光疎に祭奠常に闕とゝも猶感應の速なるを以て村民恐怖し遂に享保の頃官府に許て成願寺奉祀の宮とす毎年九月廿一日を祭祀の辰とす

多寶山成願禪寺　同所上水川を隔て西の方同し川端に臨て本郷村にあり曹洞派の禪利にして相州田原村香雲寺に屬す當寺八角筈十二所權現宮の別當にして本尊釋迦如来の像は聖德



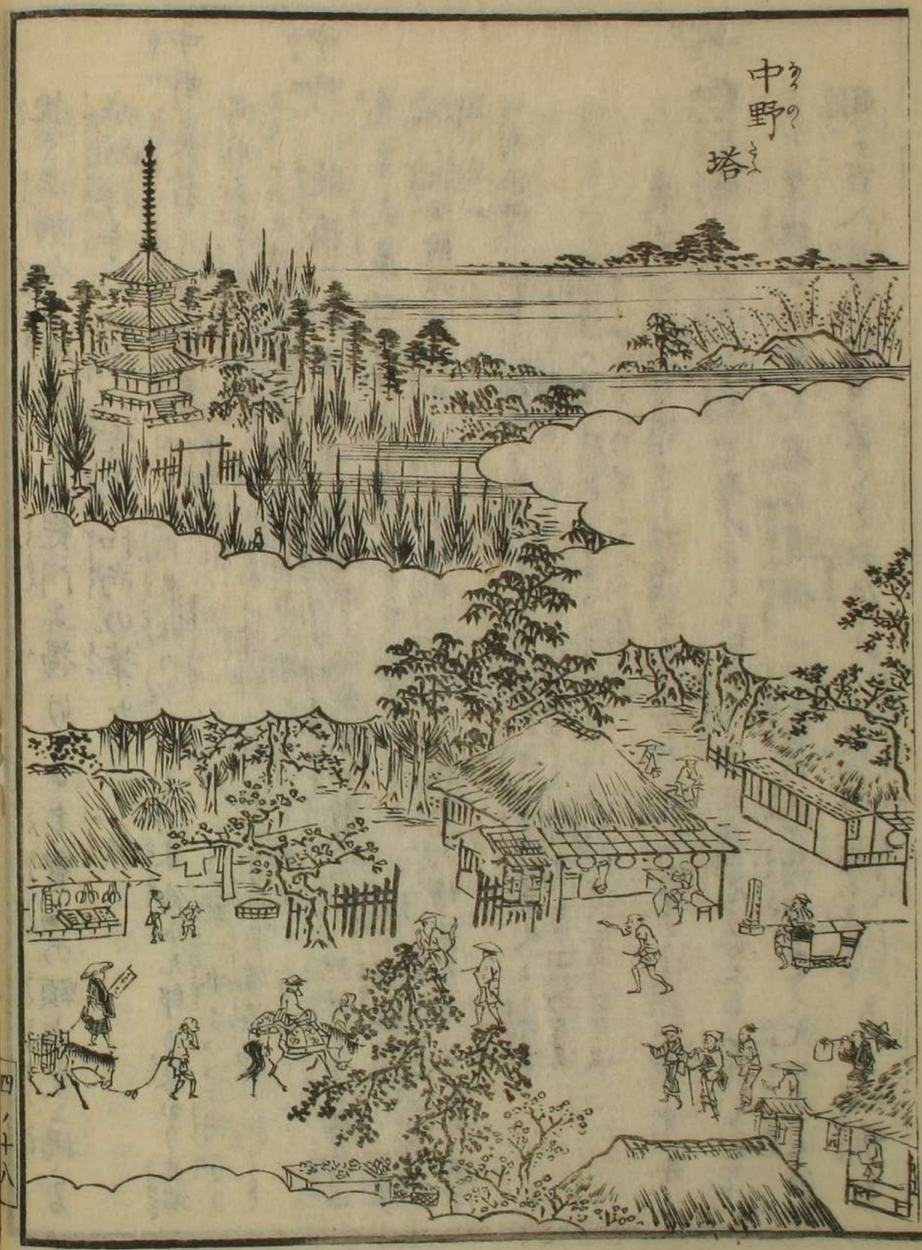

成願寺
中堂
本堂
庫裡

太子の真作なりとゝ前の十二所権現の社記に載る所の鈴木九郎
某本國紀州を出て其妻と共に此中野の地に移り住たりしに後
幸福を得て其家富栄えたりされとも宿因にやありけん一人の娘
俄に死して蛇形を顕はせり春屋禅師相州関本の最勝寺に住せしに
畜身を解脱し上天せしを得たり十二所権現宮の手洗池を蛇池と
号くとは時春屋禅師の着彼蛇の栖りし故に俗に八
せし法服今に当寺に伝へ有て父母頻に菩提心を発し法喜
受戒して自ら正蓮と改む又居宅を壊ちて精舎とし女の
法名正観の文字を以て其寺号とす女の法名を真窓正観禅女と
号く永禄二年小田原北条家
の所領役帳に島津又次郎とのゝ人の所領の内に中野内正観寺と
たゝ八當寺のことなり時に永禄の頃近に正観寺と改て
寺と改む諸堂地に三層の塔を造立し生涯優婆塞を勤行して
遂に永亨十二年庚申の歳終をとる三層塔は今中野の通り道より
境内に塔屋と称する地あり平田臥龍の釋迦如来の像も其塔中の
右にあり当寺の条下を見へし
春屋禅師より四世川庵宗鼎和尚当寺に董席して傳燈

挑く法嗣今に連綿として徳門に掲げ来る多寶山の額本堂に掲る
成願禅寺の四字は雪峯和尚の筆なり

中野長者正蓮墳墓 同し境内叢林の中にあり開基鈴木九郎の墓なり其石
武州多摩郡中野の中正観寺と云ふ茅葺一本とゝ云る冊子に
塔今崩れて半土中に埋れてあり
ありと云云昌正同音なり同巻高田百八塚の条下を應照して
中野 浄橋の西をいふ 浄橋の下を豊島郡と多摩郡の郡界
属す武蔵野の中央なるをとして志る号くと云伝へ
此地は多摩郡に
帳に太田新六郎知行の中に中野内阿佐谷又中野大場源七郎
注し加へ
永禄二年小田原北条家の所領役
北國記行

むさし野の中央なる中野の平重俊
よりくる
野の末ふもたく自然の野よりとり
なりて又
なるさらに人の神なり村内の
中野七塔 今其所在を志る人なし
或人云三所権現の
とそ里諺に中野長者昌蓮佛に供養の為高田より大窪迄
間に百八塚の塚を築くと云伝へ
次の高田百八塚の条下を
應照



とゝ其類のものゝ多し又中野の通り右側叢林の中に三層の塔あり七塔の一なりと傳へ云中野長者鈴木九郎正蓮ら建立ゆへ昔ハ成願寺の境内なりしを後世今の地へ移せり今大日如来を本尊とす昔の本尊ハ釋迦如来なり成願寺の本尊とす中ハ長者鈴木氏夫婦の肖像と称するものを安せり

明王山宝仙寺　無動院と号し寺領あり古義の真言宗にして同西の方右側にあり良辯僧都開基なりと云傳へ本尊ハ弘法大師等身の像なり願行の作なり中興開山を聖永和尚と号し往古ハ大刹なりて此地より二十町北の方阿佐ヶ谷の地にあり足利の代に至り今の地へ迁すとなり されと大永の頃兵燹に罹りて佛殿僧坊悉く焦土となる因て其頃の旧記も廃亡したりとなり開創の時世系詳なる境内普門院に不動尊の霊像を安置せ良辯僧都の作とも或ハ願行の作なりとも

中野
寶仙寺

當寺の享保十四年
交趾國より貢献
せしの馴象の
枯骨あり

馴象之枯骨　享保十三年戊申交趾國より鄭大威なる者廣南に産する所の大象牝牡二頭を率ゐ来て本邦に貢献す（林信言の事物権輿に其大泥國より来るとあり）牝象ハ同申年九月十一日長崎に於て斃せり　同年六月十三日長崎に着す（同十九日上陸す象奴二人曰譚數譚綿譯官三人合李錫明廣南ある陳阿卯等皆従ひ来る）翌十四年己酉三月十三日崎陽を発して四月十六日大坂に至り同二十六日伏見より京花に入同二十八日禁腋に朝して　天覧を蒙る（爵位なくして禁闕に参入の例なけれハとて獣類ながら従四位に叙せられ廣南従四位白象と称へられけりと）

其後同五月二十五日江戸に迎へあひ同二十七日營中に於て　上覧あり其後浅中野に象廐を建て是を飼せられけるが二十餘年を歴て寛延の頃斃せりといふ（當寺に存するものハ其牡象の枯骨也）

牡象　七歳　總身灰色にして頭の長さ二尺七寸（頭ハ俯す又顧る鼻の廻るもの態ハぞ）長さ八四尺程（或ハ三尺三寸とも云）同圍一尺五寸（末の方細くして六寸許端ふくく凹にしてよく開闔す中に小き鼻形ありその鼻弘二ツ肉爪ありてよく針を拾ひ芥子をつまむ水を飲酒を吸ふにも又鼻を以てし食する時も鼻を以て捲入る一身の力ハ皆悉く鼻にあり起て臥んとするにも先鼻を以て地を柱へて後あしを延ぶ口ハ頤にされて地を払ふ遠く常にハ…）牙の長一尺二寸程（或ハ一尺四寸圍ハ元の方にて一尺六寸許ありといへり）

眼の長さ三寸（或ハ二寸五分形ハ篠の葉の如と云）耳の幅八寸餘（或ハ二尺三寸とも形ハ蝙蝠の翅又銀杏葉の形に似たりともいふ）胴の長さ七尺四寸同圍一丈背の高さ五尺（或ハ五尺七寸）足の長さ二尺二寸同圍一尺五寸（或三尺五寸圍二尺五寸ともいへり足の形ハ圓柱の如くにして指なく爪ハ五枚ありて栗の形に似たりといふ總身擁腫すれども峻嶺にのぼり羊腸を下るに電の如く深き水を渉るに捷く其性能人に馴て意を解す故に象奴なる者其頭に跨て鉄鉤を以て鉤進退曲折左右をいふ）尾の長さ三尺三寸（或ハ二尺七八寸とも形牛尾に似たりとあり）

牝象　五歳　總身灰色にして頭の長さ二尺五寸鼻の長さ二尺八寸胴の長五尺斗同圍八尺六寸背の高さ四尺七寸（或ハ四尺ありと）牙の長さ五寸程ありて其餘ハ牡象に等しといへり（此牝象ハ長崎にありし頃斃しけり江戸へ来らずして牡象のみなり）

飼料（一日の間に新菜二百斤　篠の葉百五十斤　青草百斤　芭蕉二株根を省く　湯水一度に二斗計あんなし　大唐米八升其内四升程ハ粥に焚て冷し置て是を飼　饅頭五十　橙五十　九年母三十　又折節大豆を煮て冷して飼ふなりあり青草の中に俗間に角力取草と称するものを好みて食ふ青草なきをりからハ籾を茎穂ともに飼或ハ藁大根のたぐひも食ふなり又好んて酒を飲といへり）

御製

時しあれハひとの國なるけだものもけふ九重にみるがうれしき

甘露集

めづらしく都にきさの唐やまとをこえきし姿ハ幾ら里なる　霊元法皇

情しき氏のこゝろよかく人ゐあるぬゆ月このもゐ花そ　同

これもまこと此所ありとかきつめてこゝそむつきしのゆもとこゝ紫　同

不昧直院集
此園ふこゝしもあつくやしもまことふこゝるめゝ猛ゝけそ　光栄

仏のまをとゝ鶴のまつやこゝ雲ゐもゐんゐ代とそ　同

芳雲集
たゝへゝて氏のもゝもそつへくハ豊ゐ世のきさゝとそこゝる　実蔭

いさめそこゝぬをゝしゐれやまとゐるきさゆつの笑ハきそも　同

氏をこふたをけくきしのたゝめさハとゐんよそやこゝるへき　同

家集
此ゐをゐるこゝるのやんゐるをこゝも洞ふゐふゐそこゝん　通躬

ものゝをむゐをゐ里れをれゝゐるくきしのこゝろ笠ふ　公福

ゐふきゝしをれさゝひのこゝるつゝ弦ゐゝそゐるもゆつし　為久

桃園　同所西北の方十町ばかりを隔つ享保の頃此辺の田畝ふ悉く桃樹を栽しめゝひ頃　台命ゆりく此地を桃園と呼ハせゆひゝ今も弥生の頃紅白色をまゝへく一時の奇観こゝ此地ふ大将軍家浄遊猟の時の浄腰掛の地あるも又岡の前を流る小川ふ架せる橋を石神橋と唱ふ　此ゐれハ石神の三宝寺の池より発せる水の余流なり

桃園観音堂　土人ハ桃堂と称せり同所高圓寺村の高圓寺といふる禅林ふ安置せ本ゐハ聖観音ゆゝく恵心僧都の彫像ゐりと

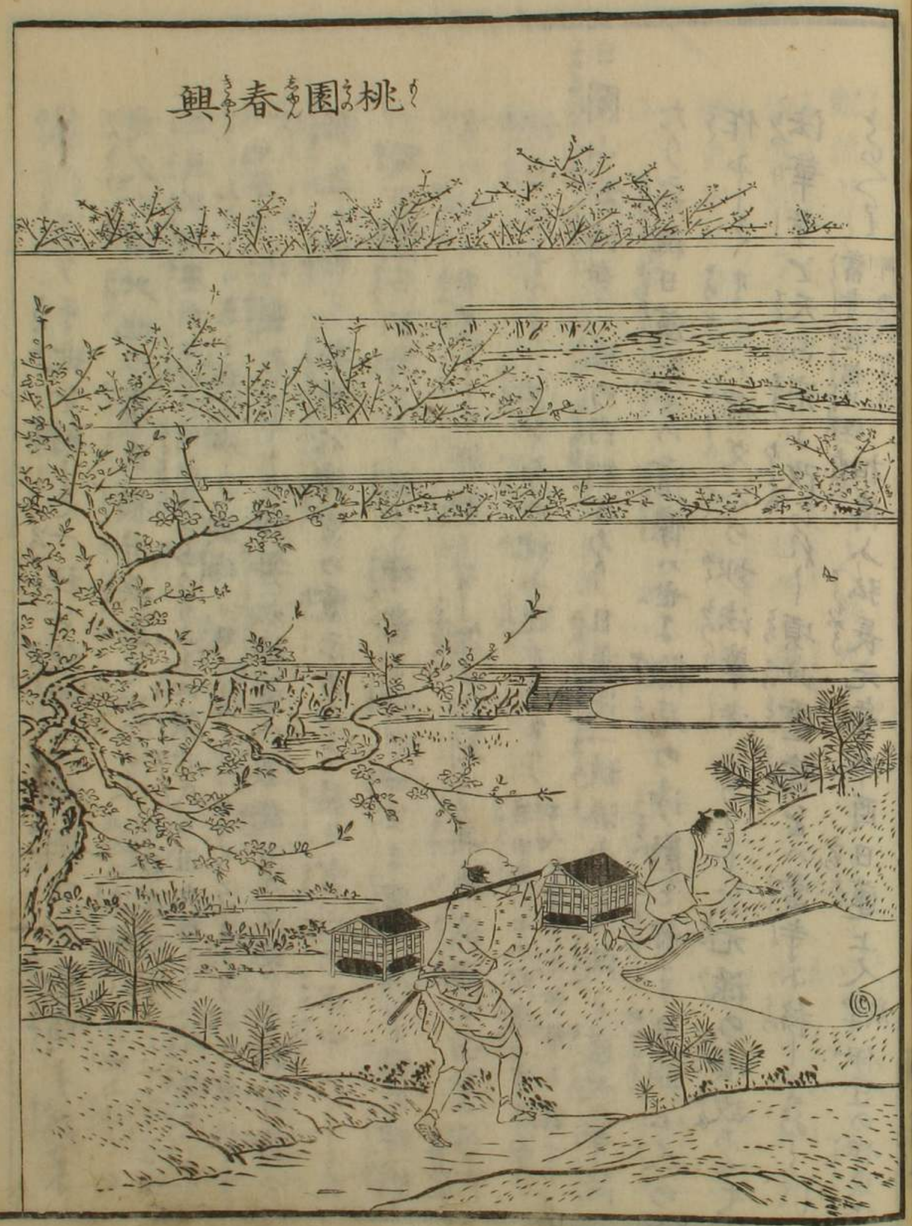
当寺ハ中野の成願寺ふ属せ弘治年間の草創ゆゝく開山を建室和尚と号く山号を浄殿山とも号へ　大将軍家慶ゝ当寺へ立寄らせゐひ假の浄殿あゝしゝふハ当寺の

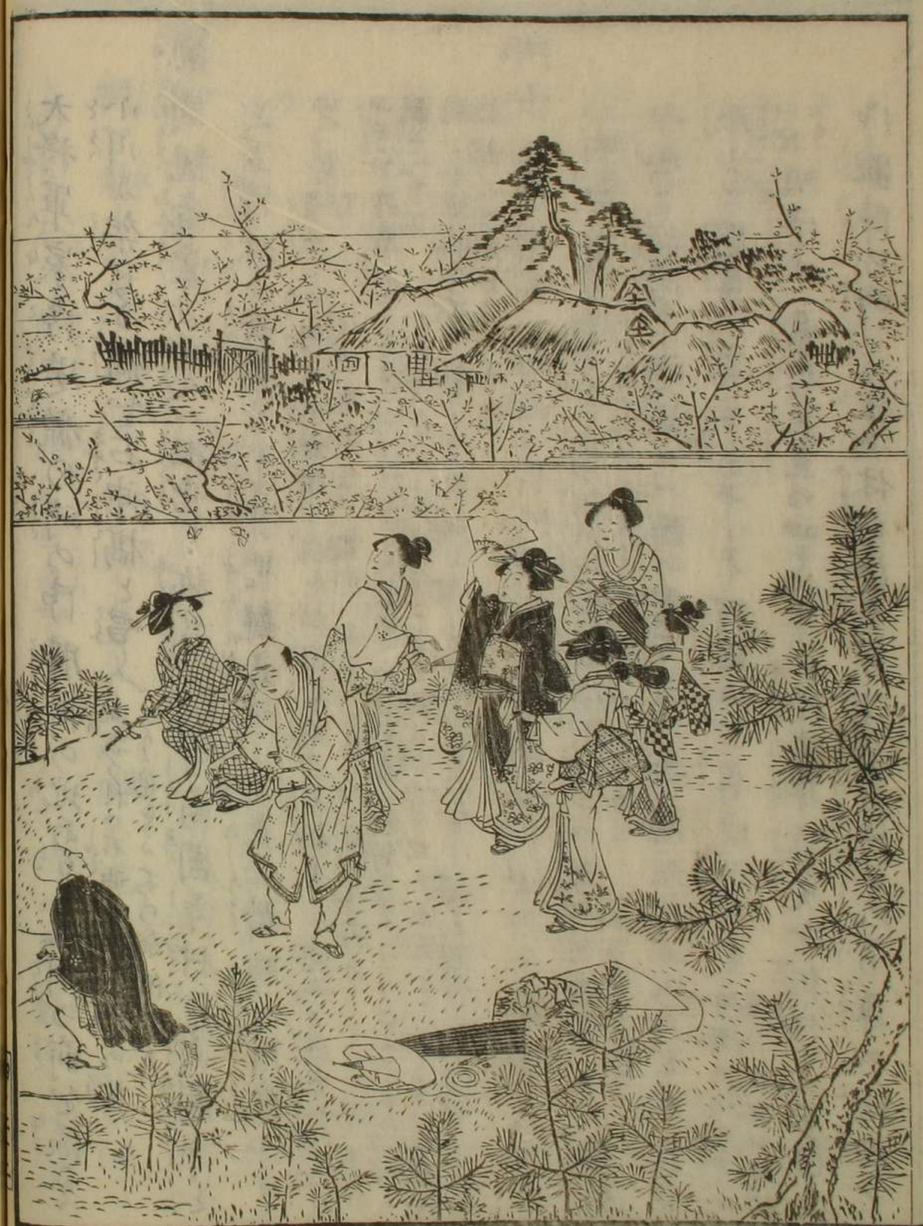
台命あり境内ふ頃ハ桃樹多ゝ享保ふ新ふ中野の地ふ桃園とゝつゝゐひ田圃の

桃園の旧地ありと　同所ふ桃林を多く栽しめ桃園と称せられゝりとゐり故ふ土人ハ当寺をゝして

阿佐谷神明宮　同西の方阿佐谷ふあり中野の通りふそハ右へ入る十八町計ひり　阿佐谷ハ小田原北条家の所領役帳ふ中野内阿佐谷とあり　太田新六郎の所領中野ふ属せ昔ハ中野ふ名ゐりしと　祭神伊弉ふ相同し神躰ハ一顆の霊石なり毎歳九月十六日を祭祀の辰とを別当ハ真言宗ゆゝく阿谷山世尊院と号も　中野の宝仙寺ふ属す則宝仙寺の旧地相伝ふ　景行天皇の四十四年日本武尊東夷を征伐しゐひく浄凱陣の時この地ふ休らひゐひゝく平後土人ゐ尊の武功を

桃園春興



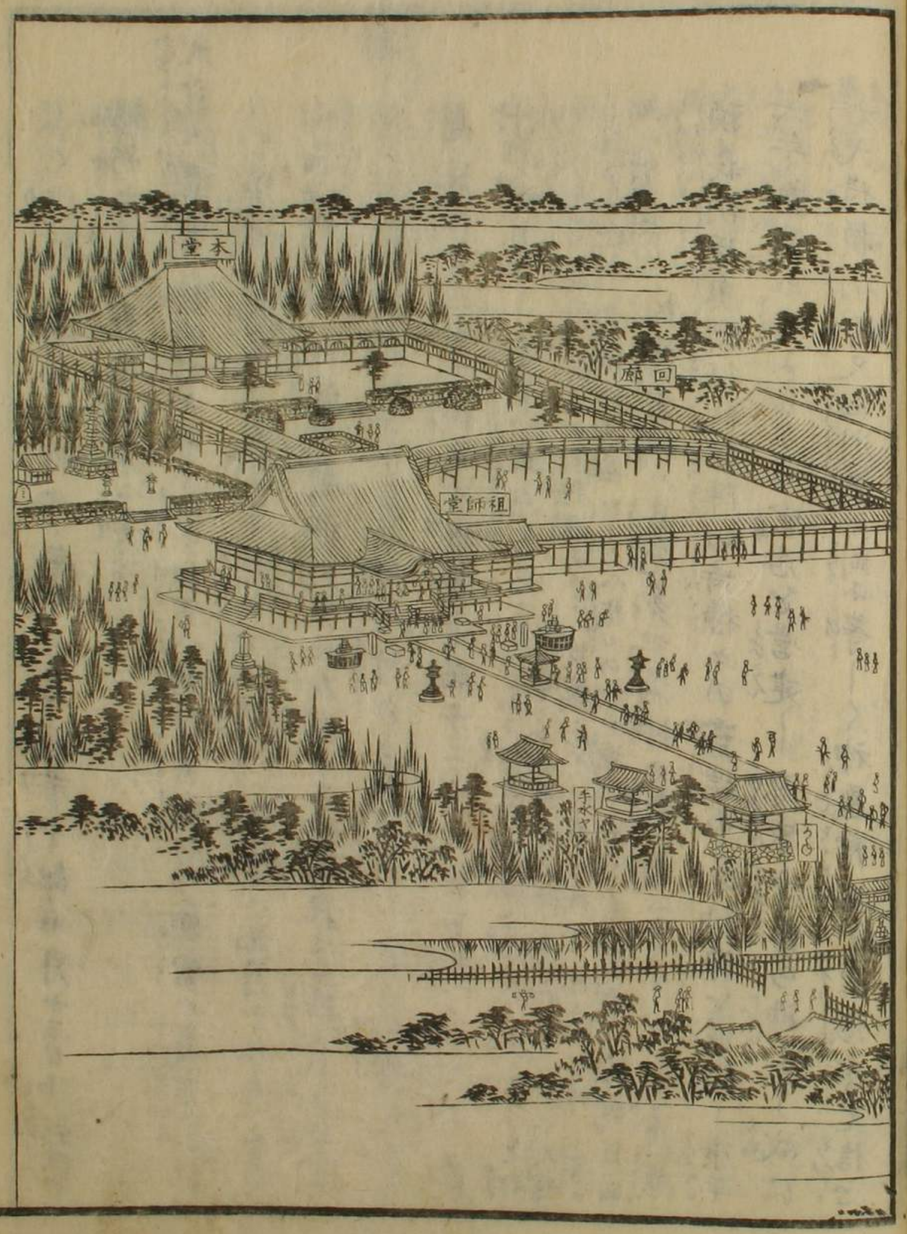


墓ひまり所地を封して一社を経営し神明宮を勧請す然るに
建久の頃此地の農民横井兵部と云る人（此人の遠裔今も此地に住し子孫連綿と云て昔源
頼義朝臣奥州征伐の時此地に到り此横井氏の祖兵部と云者随兵に加
由所家に急に病に臨て戦場に趣くに到り終に農民と成
伊勢太神宮へ祈願あるに伊勢国飯保野の
驛舎に宿す其夜太神宮の霊示あるに翌日宮川の水中に
一顆の霊石を得るに依て神意に任せ旧里に携へ帰る件の神明
宮の社に安置するに神躰となるに其後祇海と云る沙門
神告あるに社を今の地に迁せりとあり（其旧地は七八町東の方にあり土人ここを元伊勢と称す）
日圓山妙法寺　堀の内村にあり日蓮宗一致派にして頗る盛大の寺院
たり宗祖日蓮大士の霊像は世に除厄の浄影と称す日朗上人の
作にして元先は碑文谷の妙法華寺にあるを元孫の頃故ありて
法華寺を天台宗に改られし頃此霊像をは当寺に移しまつる
といふ（当寺住侶日性師の代なり）相傳に弘長元年辛酉日蓮上人四十歳伊豆の伊東へ

配流せらるる日朗師随身して其地に至らんと此事協はず
依其時上人の命あり日朗師は鎌倉由井の濱に止る日夜師の
赦免を祈請す或夕同し海上ゆく一箇の霊木を感得し日蓮
上人の真像を手刻し常に仕へて怠らず（此浄影は宗祖大師の像を造るの権輿なり）諸天
感應の時至りて弘長三年癸亥五月赦免あり日蓮上人
鎌倉に還るの頃此霊像をみて感悦ましまし我心神今より
此木像にうつるとて永く来際に迄救護衆生の利益無窮なん
我既に四十二歳ゆく救を得しは此木像に除厄の号を称へし
とて自ら點眼なしまつる
加持符　百信の華三七日の間此符に対し正念に唱題誦経されは寄願成就壁上
或は家の柱に貼す故に世俗張符と云る病を患る所あるに在せは日蓮上人伊豆の伊東にて
ひ霊應あり後日浪師是を伝へしより已降世に相承まるといふ
當寺は遥に都下を離れしとは霊験著故に諸人遠を厭ふ

堀の内
妙法寺

當寺ハ安置の日蓮大士の感應ハ多ク唐土ニ聞ヘ風雨寒暑ともいとわず都鄙の貴賤日毎ニこゝに詣して百度参詣片時絶ることなし　殊さ七月の法華千部會十月の會式ハ祥瑞稀有の如く駢闐云ふの及ふよしなし



しく歩行を運ひ渇仰す毎年七月法華千部十月十三日御影供を
修行せ玉へ群参稲荷の如し
大宮八幡宮　和田村にあり和田八幡宮共称せり別當八真言宗に
して幡降山大宮寺と号く（昔八中野の室仙寺奉祠）例祭八九月十九日とす
（二十一日迄三日の間市立く賑ふ）神躰　應神天皇又左右ハ二神あれとも往古の兵燹ハ
羅く舊記亡ひ（ふ）して神名詳ならす疑ふらくハ仁德天皇と
高良臣なるへきか何とも霊妙奇異ゆゑ文彩を加へ玉へ大古質
朴の風あるへく彫刻最巧なるへしすいるるかゆゑ元禄の未より神厨子を釘
年間別當祐照法印一七日行法あるへく後慎んてこれを開き神像を拝し天明
（年建部氏昌盛と人信心の人ハ施しあるへく自ら神影を拓図
画し）梓よ　相傳當社ハ其先多田満仲の勧請なりといへ共後源
頼義朝臣奥州征伐出陣の時種々の霊瑞ありて神像を感得し康平
六年凱陣の時より宮居を営建し源家守護の神とす故に
右大将頼朝卿又相州鶴ヶ岡ハ等しく神殿僧坊を重修ありて信心

最厚し（昔ハ大社わして壮麗なる宮居ありし）然ハ足利将軍の世越後北
上杉相模の北条と戦ふ頃上杉の勢兵此地ハ屯し（ハ地名とも大宮と称来るとなり）放火せ
大樹の下ハ道れの（ハ別當真順法印）こゝかしこく社領ハ賊のゆゑ掠られ（時神像ハ火焔と共に山中）神巫
（祭祀ハ絶し）まるかゆゑ悉く焼亡し社僧も四方へ分散しられハ神躰のみ絶よ叢祠ハ安しかりしハ天正の
頃大石信濃守當社の古きを尋く神宮を建る同十九年忝も
大神君此地ゟ台駕をめくられ源家累代守護の霊神なるを
あろしめられ新ハ神領を附しめ給へり
幡ヶ谷不動明王　幡ヶ谷村ゟあり真言宗光明山荘厳寺ゟ安置せ
本尊不動明王の像ハ智證大師の作なり毎年四月八日より同
十八日迄内拝せしむ相傳ふ往古智證大師江州三井寺を創建の
時彫刻の霊像なりとゝ天慶年間平将門東國ハ在て逆威を
震ひ帝を悩しまるかゆゑ平貞盛及ひ藤原秀郷を追討の宣旨を
蒙て東國ゟ發向せ玉へ時三井寺より此本尊を奉持しく陣中ハ

大宮八幡宮

當社廣前の老松ハ矯々と
して雲を拂ひ數百歳の相を
標せり白石先生も此松を賞
して奥羽とたしゝ房総豆相
東海一路畿内濃尾の諸州
ゝも未ゝる長松の多き成
ゝけと彩安永笈小記ゝれゝ
又社前の大路ハ往古の藻倉
街道ゝて今土人正用御石と
唱へゝり上る井戸ゝ藻倉揭
とゝるゝのわるもいゝゝ
御石ゝゝ
四称とゝゝり

石門を討

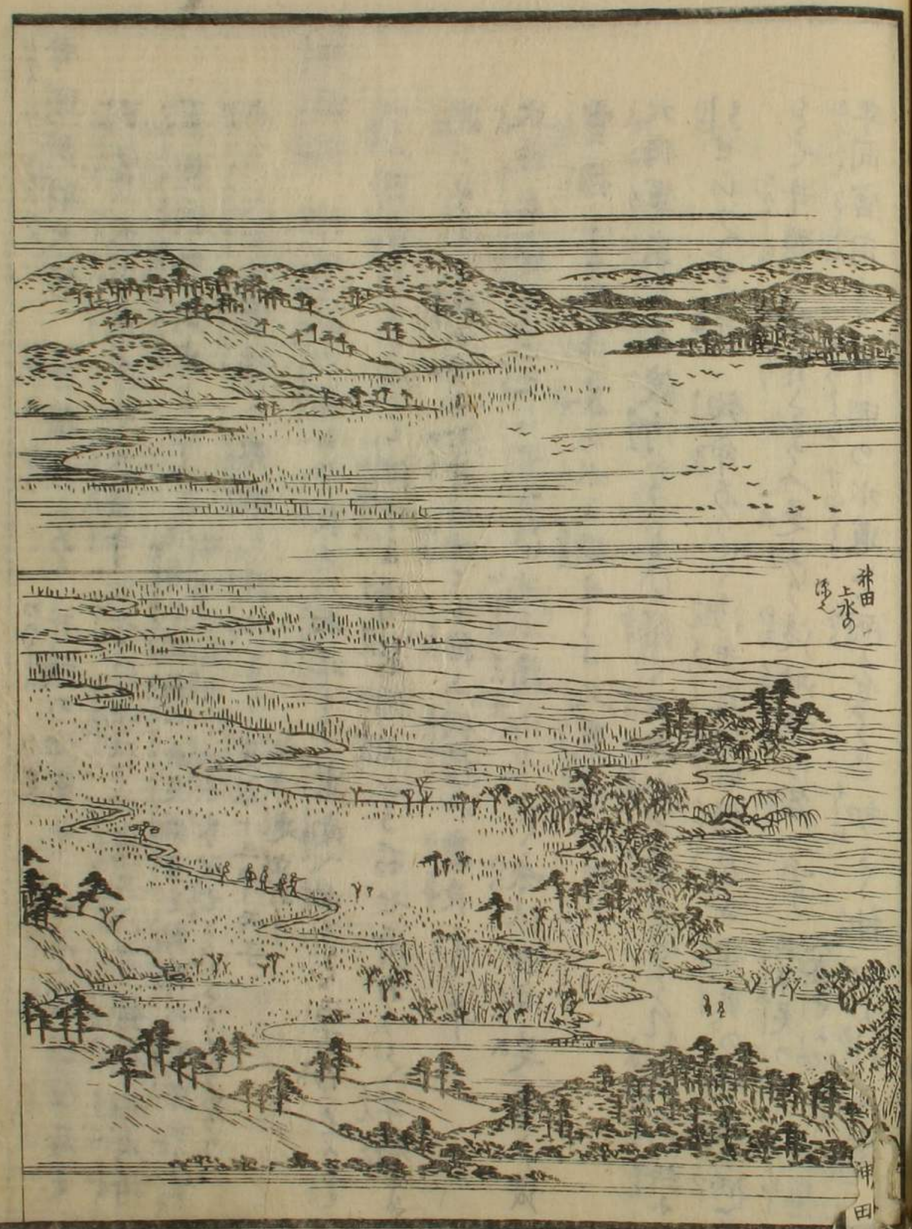
軍の勝利を祈誓せしに同三年庚子果して其門を討亡したりしより後此霊像を下野國小山郷へ迁しまゐらせ然るに永禄の頃武田信玄甲州より安座しまゐらせを又北条氏政奪ひ取て相州築井といへる所の寺院へ入まゐらせを竟に天正十八年四海安靖なるに及んで當國多磨郡宅部の三光院へ使へありしを霊夢の應あるを以て延享四年丁卯永く當寺へ安置しまゐらせるとかや

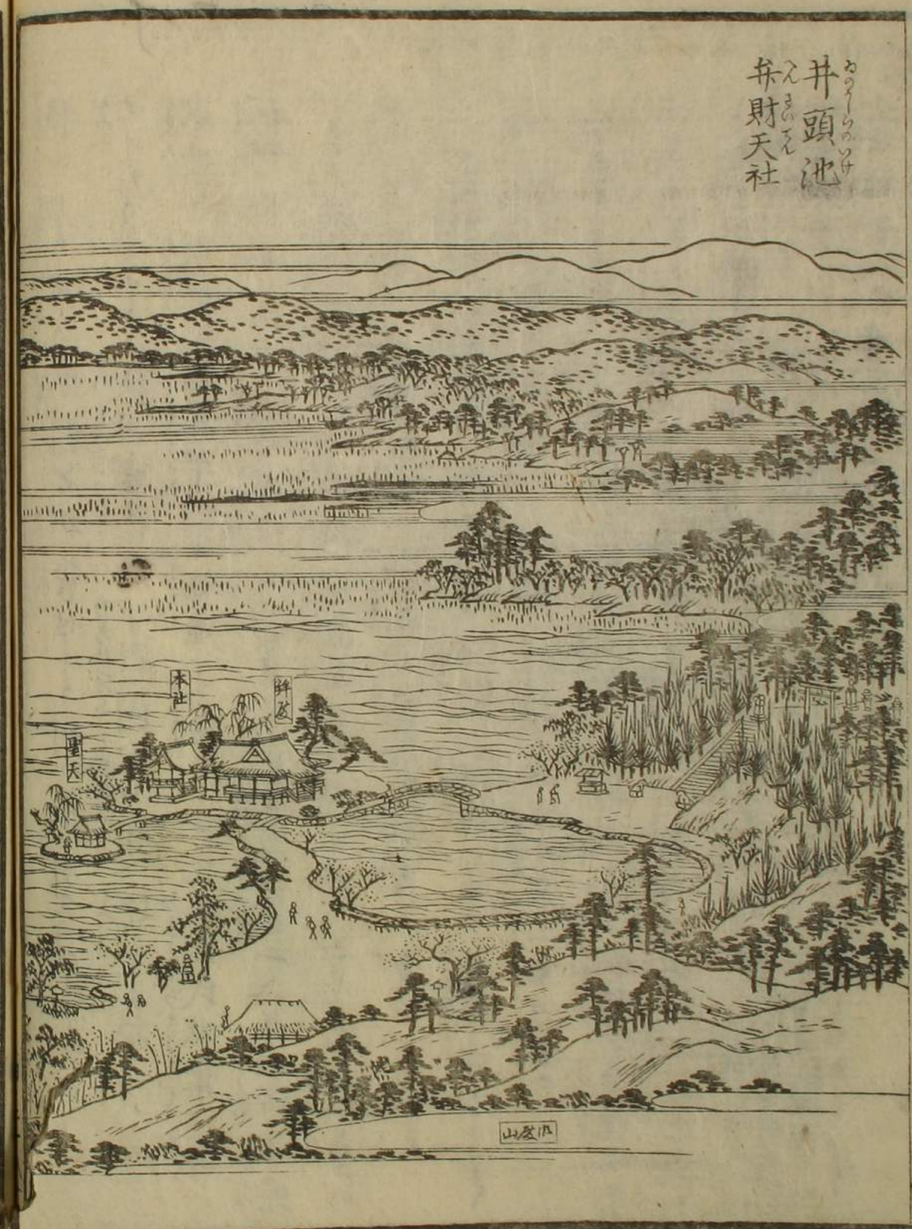
井口山慈宏寺　大宮前新田川越海道の右側にあり日蓮宗にして

寛文年中の草創開山ハ日賢上人と号し本尊ハ三宝を安置

當寺へ安置の日蓮大士の像ハ日朗上人の作なり相傳ふ弘長元年辛酉五月十二日大士伊豆の伊東へ流せらるる朗師大士の別れを惜み

まゐらせ霊木を得て大士の影像二軀を彫刻あり一躰ハ座像にして法華寺へ安置す其二ハ立像にして始碑文谷の此霊像題目旅行の躰相傳ふ世に光明木旅立の影像とも称し大士鎌倉へ立帰る後当寺へ安置せり即


井田
上水の堀

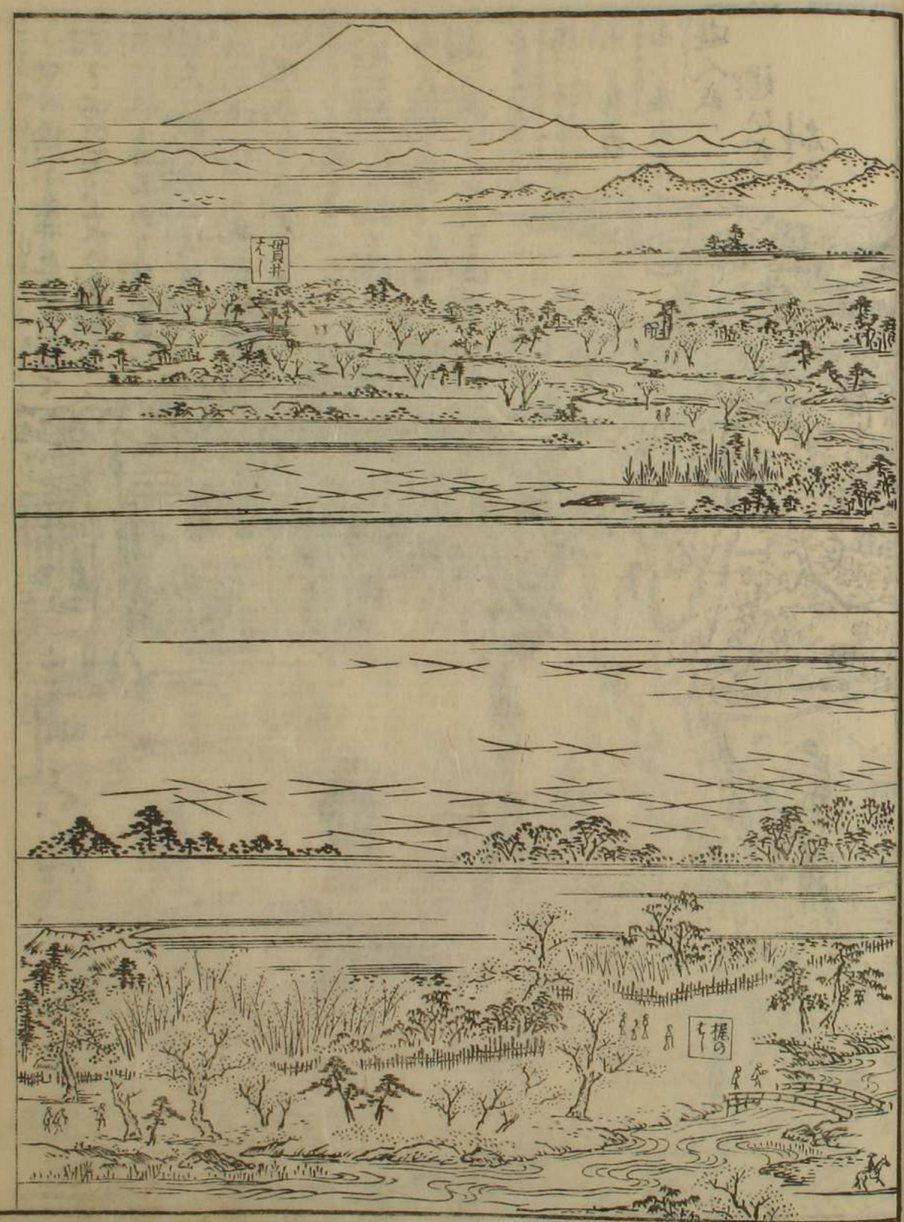

井頭池
弁財天社
本社
拝殿
弁天
山岳山

井頭辨財天宮　年禮村よりあり　井頭の池畔や〻く中島に宮居を
別當ハ天台宗や〻て大盛寺と号し相傳ふ建久八年鎌倉右府將
軍頼朝卿創建しゐつこ（正慶年間新田義貞鎌倉と對陣の時當社より軍勝を祈念し北条家を亡されしとなり）
本尊天女の靈像ハ傳教大師作なり　寛永十三年丙子社殿建立あり

井頭池　神田上水の源なり長さハ西北より東南へ曲りく三百歩ばかり
中ハ百歩あまりなれども池中より清泉涌出るる所七所ありく旱魃
凶るるあり故ふ世より七井の池とも称ふ相傳ふ慶長十一年
大神君適〻ふ至らせのひ池水清冷や〻く味ひの甘美なる故
賞揚しゐひ茶の水より汲せらる又寛永六年
大將軍家〻ふ渡御なしゐひ深く此池水を愛させられ大城の傳許ふ
らせらるべき旨　釣命ありく手自池の傍なる辛夷の樹ふ植ふ柄を
そて井頭と彫付〻ふ是より後此池の名とす（其辛夷の木ハ大盛寺ふ収蔵ス　兼應）
年間官府より井頭の水道を開かせらる初く神田より（故ふ神田と）

上水の称あり　寛永八年辛未の夏池水渇るあり〻を天海大僧正加持し給ふ
項霊感のあり〻て後、田のあく湧出し〻く固し〻く今毎年三月
十五日より四月十五日迄水加持あり　伊勢枝の柳ハ聖天堂の後よあり（腰掛の柳と称す）臥竜北
藤　今在所さく　三ツ柳ハ神木と称す　西北の方ハ丘陵を今御殿山と
いふハ昔耕の御殿館あり〻し跡なり〻かく唱へるとい〻り

繁生す　樹木
此池ハ清泉や〻く炎天ゆゑ水の減ずる〻なく常ふ沁沸として
湧出す　其地最閑寂ふ〻く池辺柳樹多く初夏の頃ふ初れハ
新葉黙〻と〻く陰をなし　浅翠嬌青碧空を蔽ふ似る〻
金井橋　多摩川の上水堰両岸の芝塘よあり金井村より架す故ふ名
とす　水源小川村より新橋の東北千川上水の掛口のあり凡一里あまり両岸を
桜あり〻く左右の両岸九村より跨る架流の橋大小七ヶあり
何も地名ふより〻く唱へる金井橋の類　直流元十里あまり是を王川上水と号す兼應の項名て
播州江戸ふ至る水流と大江戸ふ此地の櫻花ハ享保年間或云元文二年丁巳郡官川崎某
台命を奉し和州吉野山より人常州櫻川等の地より櫻の苗を


賀井大人
樋の上

小金井の樋の春の景
放亭
小金井
堰の上

小金井橋ハ小金井邑の地ゝ傍て
流る玉の玉川上水の素堀り
架ル故ゝ此名あり岸を夾ひ
櫻花ハ数千株の梢ハ垂へ
落英瓚紛たり開花の時
ハ橋上より眺望まれハ
雪とまがふ雲とまがふひて
一目千里おゝ盡る際ハ
ちらハ仍て都下ハ遠人
遠と感ぜしてゆゑ遊賞
もゝろりのゆゑハ
拵ゝ酒と煙草
弟と煙草あ
ゝ茶店あり
遊人或ハ
憩ひ或ハ
酒も

春ハ
夜ハ
さくら
ゆ
あけく
ものこと
ろ
芭蕉

殖らゝかゝ中ゝく其數凡一萬余株あり〳〵そ今存ふるの古木一圍ゟ
項まてハ年ゝふ官府ゟ殖つせすひ〳〵と立春より五十四五日目の頃
あり今ハ年々大ふ減ゝく凡三百株あり
開初ゝく六十日目を滿開の期とす七十日目の頃ゟ至りてハ落花も
最年の寒暖ふゝりゝく少〳〵の遲速ハありといへとも大方ハ違ハす
就中金井橋の辺ゟ佳境ゝく爛熳〳〵ふゝ両岸の櫻玉
川の流れを夾んで一目千里実ゟ前後尽る際をゝ〳〵
遊へハさゝ〳〵白雲の中ゟあるゝめく蓬壺の仙臺ゟ至るゝあ
しゝる最奇観ゝゝふゝ近年都下の騷人韻士遠を厭ハすゝゝふ
来て遊賞す

津久戸明神社　築土銀町ゟあり（此地ハ牛込と小日向の界中て当社の方ハ牛込ゟ屬す）別當ハ天台
宗ゝく善龍山成就院と号ス本地佛ハ聖観音傳教大師ゟ
作なり相傳ふ天慶三年庚子相馬將門誅せゝれ〳〵後て首級を
當國江戸平川の観音堂へ移〳〵是を齋ゝく津久戸明神と称す

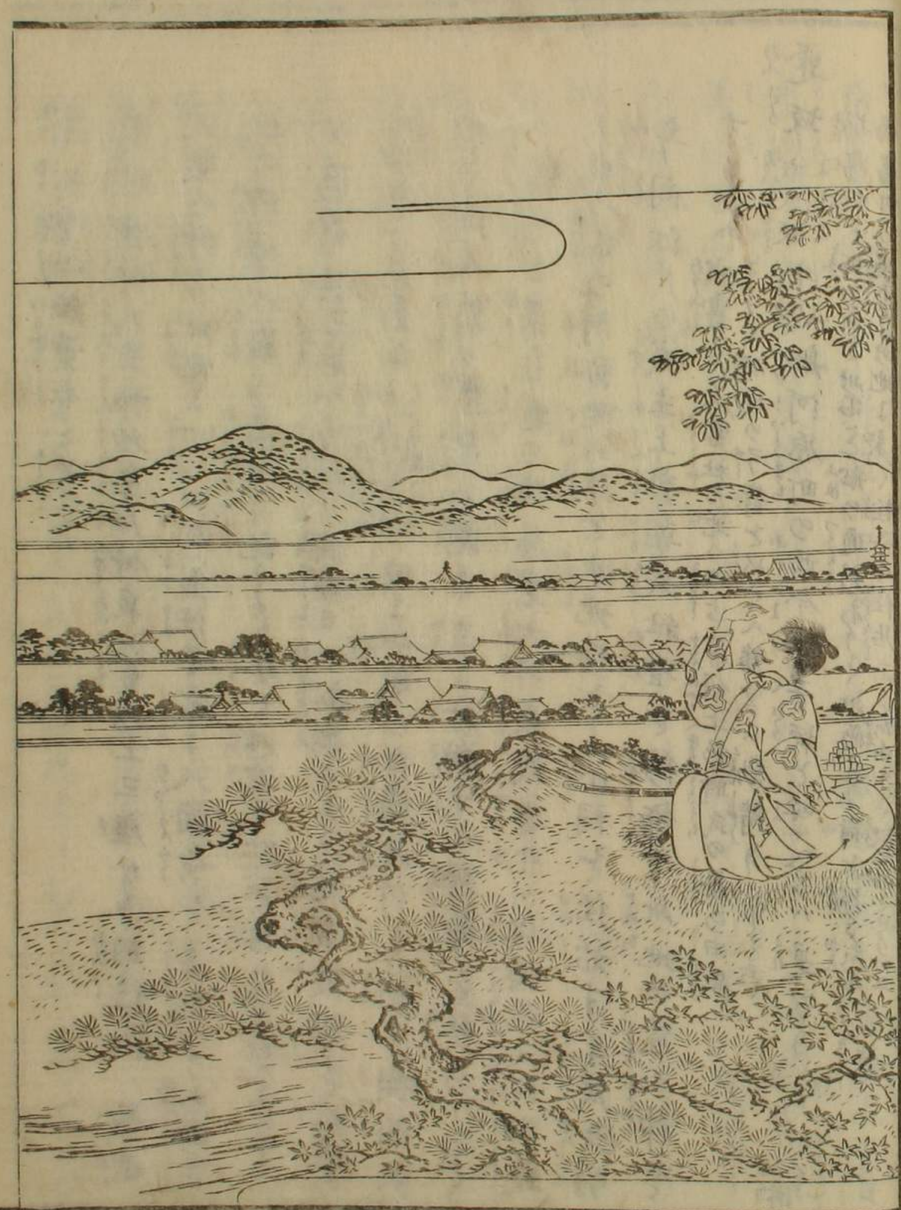
文明十年戊戌太田道灌江戸城の鎮守とゝく宮社を造立
あり〳〵そ永享記ゟ武州入間郡川越の城の乾ゟ氷川明
神の社あゝふ準へ文明十年戊戌六月五日江戸城の乾ゟ津久戸
明神を勸請すと云ゝ（江戸砂子ゟ永享記を引くかゝひ又中古治乱記
江戸城を築〳〵条下ゟ津久戸明神ハ氷川と同躰の由なれハ素盞
嗚尊なりとそ）

按ふ特門の靈ハ後ふ合祭〳〵ふ欤南向亭茶話ゟ云ゝく筑戸田ハ次戸と
書も往古ハ江戸明神とそ江戸城の鎮守ゝく江と次と字形相似ゝるゟ
ゟの頃ゝく誤て来ゝ〳〵ふ依ゝく考ゝへハ当社ハ武蔵國風
土記ふ載ゝる不の江戸神社ゝふ欤祭神もゝく素盞嗚尊ゝく風
土記ゟ合せり狐弟五巻神田明神の条下江戸の神社の考へを附せりてしあり

當社ハ往古上平川の地ゟあり〳〵を天正七年己卯田安の地ゟ遷座又
元和二年丙辰今の地へ移〳〵ゝる（昔ハ筑戸ゟ作る後改めゝ築土とす）中古田安の地ゟ鎮
座の頃ハ田安明神と唱へ〳〵とあり祭禮ハ九月十五日なり

築土八幡宮　津久戸明神の宮居ゟ並ふ地主の神ゝく別當ハ天台

築土八幡宮
同明神社



勝喜洛陽千歲
光瑞烟祥氣入
望昌三條橋影
遊魚聚十字街
頭征馬惟宕音
風來吹袂過叡
山雲度引紳長
金湯城上立鴟
尾九陌不消逐
墨方山嶋垂加

宗松霊山無量寺と号す　嵯峨
祭神應神天皇神功皇后仲哀天皇以上三座なり相住す
天皇の御宇此地に一人の老翁住す常に八幡宮を尊信す或時當
社の御神此翁に夢中に託して永く此地に跡を垂たまふとの
老翁奇異の思をなす　其翌日一松樹の上に瑞雲鬱鬱して旌旗の
めくるを見る　松雲山の号　時に一羽の白鳩来りて同じ樹間に
ゐる　郷人翁に霊夢を聞く　直に此樹下に瑞籬を繞らして
八幡宮と崇む　遙の後慈覚大師東國遊化の頃傳教大師彫造
しまします阿弥陀如来を本地佛とし小祠を建始す　後文明
年間江戸の城主上杉朝臣壇を修飾し　此地の産土神や
すらの人　或書に曰　當社の地は往古菅領上杉時氏の墨の旧跡
逢坂　或大坂　牛込船河原町の西今軽子坂と呼へるは是なり　此坂下横溝
揚場町と称す　揚場町の町家を船の通形ありしを此所より荷を揚るふ
揚場町の唱あり此地に多く軽子の住居あるゆへ坂の名とせりと云　里諺に云昔

奈良帝の御宇小野美佐吾といふる人武蔵守に任して此國へ下る
ことの頃此ところに玄及藤といひてこゝにかくもいつくしき女ありけ
美佐吾いひそめてこゝにもむつまじくもとへり月日経て美佐吾は　帝に
ゆゑ奈良の都に上る若草山の麓に住ひ程もなくこゝにまうり
ぬる時美佐吾いひけるは我死ん後はかゝる立骸を武蔵の國に
おくりさねうつゝに住る辺へ葬るへしとなきさけび境をうふ隔て
ぬるゆゑはこゝて大和の國なりける若草山の麓に葬つるを
武蔵野とるつけそめしこゝ塚ともむさし塚とも呼へるは是
しるなり　地の古老伝云　塚大納言兼武蔵守良岑安世卿の古墳なりと
うく身まうりぬるゆゑもこゝさうしうしろ恋慕ひて神に移さ
佛にもちひあけうまに歎き悲しまるる夜夢のさまこゝあるに
うまは此所にきうしまして美佐吾にあひぬありしうり
かたちぬ姿なりしかはれしとなりにえてこゝもむかしをかたひ

るふ生姿乃消せるれハ美佐吾ら身まうりぬるをきりて
此めりの淵ゑ身を投く空しくなりぬ後
此所を逢坂とハいへりとなん（神乗坂の西の小坂を土俗幽霊坂とよへり恐らくハ逢坂と混しるる欤又地名をあ坂といひ女の名とする）

神楽坂 同所牛込の御門より外の坂をのぼる坂の半腹右側ゑ高田穴八幡の旅所あり祭礼の時ハ神輿此所ゑ渡らせらるる其時神乗を奏する故ゑ此号ありといふ（或云津久土明神田安の地より今の処へ迁座の時此坂ゑそ神乗を奏せ加ハ号くとも又若宮八幡の社近くして常ゑ神乗の音此坂迄きこゆる故ゑ名とる欤）

若宮八幡宮 同所若宮坂の上若宮町ゑあり（或若宮小路別当ハ天台宗普門院と号ス相伝ふ文治五年の秋右大将頼朝卿奥州の泰衡を征伐せんとゑ癸向を時宿願あり奥州平治の後当社を営み鎌倉鶴ヶ岡の若宮八幡宮を移し祭らるる也（若宮ハ仁徳天皇より後応神天皇ゑ改め祭ると云）文明年間太田道灌江戸城鎮護の為当社を再興し社壇を江戸城ゑ相對せしむるとあり

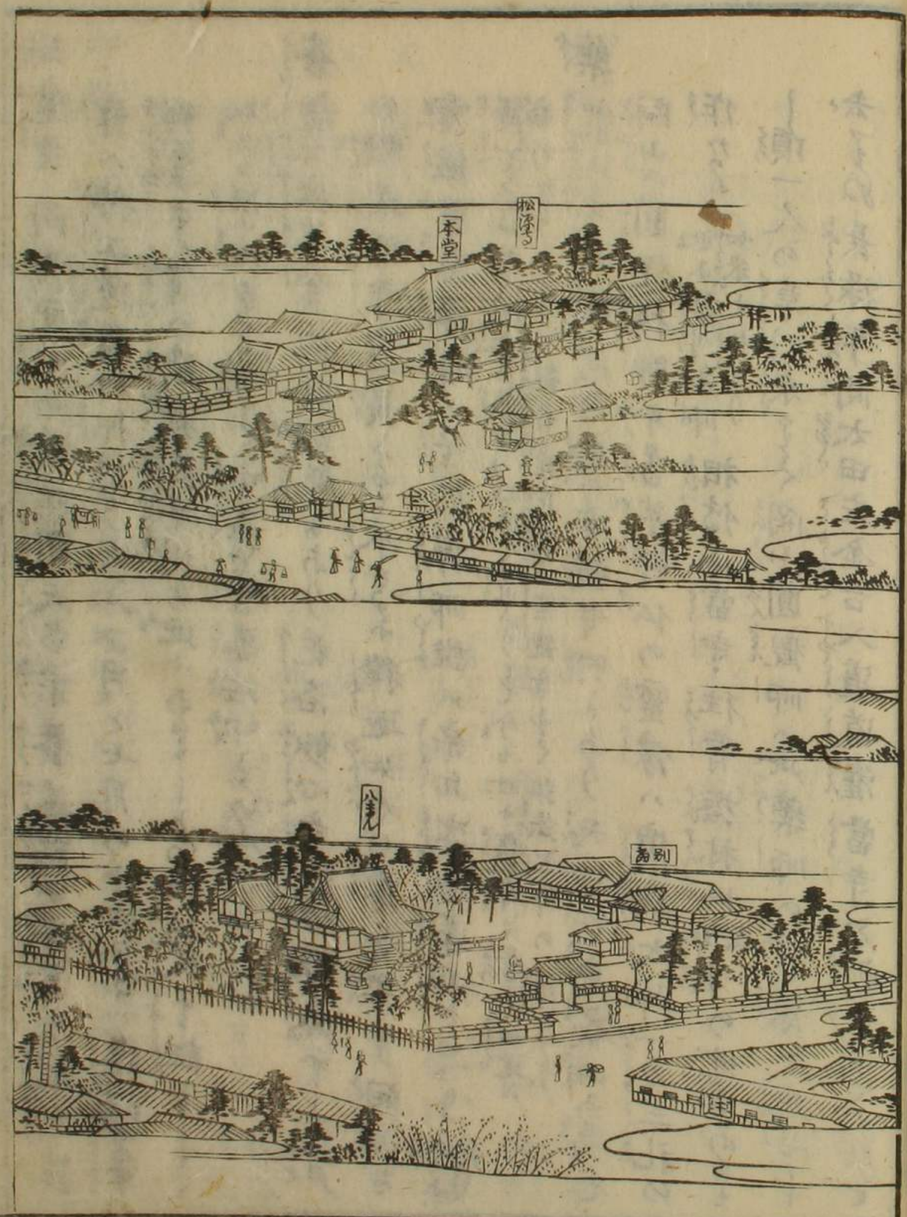
牛頭山行元寺 千手院と号ス同所神乗坂の上寺町道より右ゑあり天台宗東叡山ゑ属す本尊千手観音大士の像ハ恵心僧都の作なり禁懸の木慈覚大師を冠山と号ス云（土俗伝へ云当寺昔ハ大刹にして總門今の牛込市ヶ谷の辺ゑあり神乗坂迄中門の旧跡あり大永の兵乱ゑ堂塔破壊せ頃のものと古き大般若経を秘蔵せりと云背門内左右ゑ南天樹多ろ南天寺と字せり）

本尊縁起云右大将頼朝卿石橋山合戦の後安房上總を歴て下總國より此國ゑ打越ふ頃ゑ前ゑ通夜せ夢夜の夢ゑ頼朝卿自ら此霊像を禁ゑかけ給まふ源家の武運を開くとえふ後果して天下を一統せられしより頼朝禁懸の像と称へまるると云

牛込城址 同所藁店の上の方ゑ旧地ありと云伝ふ天文の頃牛込宮内少輔勝行此地ゑ住ふ城墨の跡ありとぶる

牛込
神樂坂

月毎の
宮のまつり
の他商
人市を
開て
賑ふ
聖天
門堂
護國寺
山王
八幡宮


本堂
松源寺
八幡宮
鳥居

松源寺
行元寺
若宮八幡宮
行元寺

閻魔堂　同所寺町の通左側　天台宗養善院ゟ安置せ閻王孔
像ハ佛工運慶の作なりとゝふ正月と七月の十六日ゟハ參詣の輩
群集す　昔ハ御城内平川の地ゟあるゝ　とゝひ伝へ　ゟ証とゝく
今も平川寺と号く中奥と智導法印とゝ

蒼龍山松源寺　同所向側よあり　花洛妙心寺派の禪林ゟして江戸
の觸頭四ヶ寺の一員ゝゝ　本尊ゟ釋迦如来の像を安す　閑山ゝ
靈鑑普照禪師と号ク　禪師諱ハ宗丘字を蓬山といゝり　俗ゟ長刀
蓬山とゝゝ　昔境内ゟ猿を置て今も世ゟ猿寺と号く　旧地ハ
畝町なりとゝゝ　観音堂本尊ハ聖観音ゟく　弘法大師の作なり

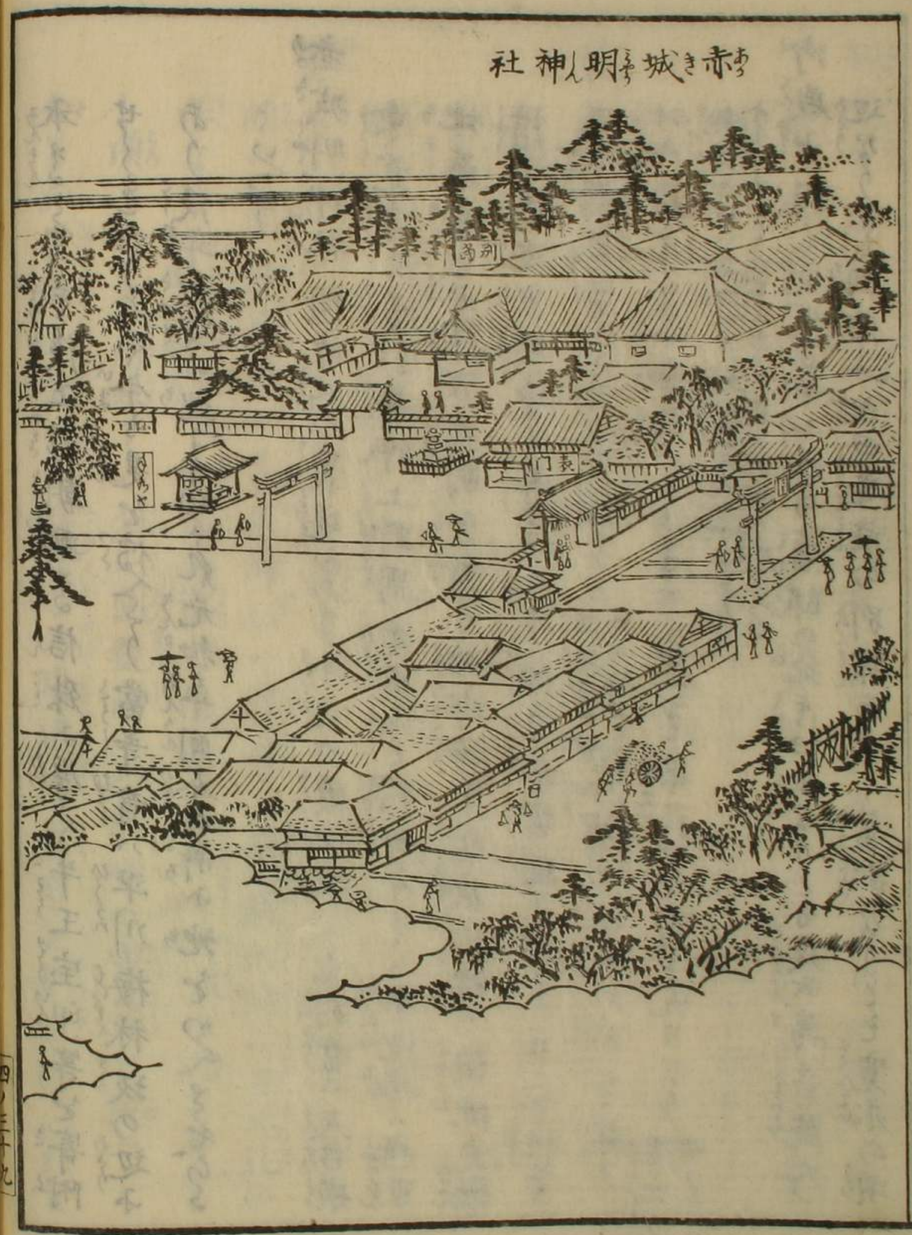
藥

龍山正蔵院　同所南の方横寺町よあり　天台宗東叡山ゟ属せ
閑山ハ圓観律師本尊茱萸師仏の靈像ハ傳教大師一刀三礼の
作なり　世ゟ草刈茱萸師　如来と称せり　相伝ゟ當寺往昔梅林坂御城内の地よあて
し頃一人の草刈来ゝく閑山圓観師ゟ此藥師の靈像を授与し
去ゝぬ　長禄年間太田左金吾入道道灌當寺を創建してこれを
本尊とす　爾後上杉朝興ゝる信殊ゟ厚く牛王宝印等を寄附
せゝゝたりとゝく今も是を伝ゝゝり　當寺昔ハ平川梅林坂の辺ゟ
あり後年田安の地ゟうつされ元和年間今の所ゟ地をかへゝせらる
とゝゝり

赤城明神社　同所北の裏通ゆあり　牛込の鎮守ゆゝく別當ハ天台宗
東覚寺と号ク　祭神上野國赤城山と同神ゆゝく本地佛ハ將軍
地蔵ゝると云　往古大胡氏深く此御神を崇敬し始ハ領地ゟ勸
請ゝく近戸明神と称す　爾後子孫重泰當國ゟ移ゝて牛込よ住せり
又大胡を改めく牛込を氏とゝ　其居住の地ハ牛込店の辺あり　先ゟ我も　祖先の志を継く
此御神をこゝゟ勸請なゝまるとゝゝく　祭礼ハ九月十九日なり　當社始く
勸請の地ハ目白の下　湖口領の田の中ゟあり
今も木立あり　是を赤城の森と称ス

御殿山　同く東の方中山家の藩邸の地ゟ旧址なりとも　或云萬昌院乃
辺なりとも　相伝ゝ太田道灌の別館ありし　舊跡なりとゝ　寛永の頃

赤き城明神社



大将軍家御故鷹の時の御儲とゝく假ふ建置あひ御殿の地なりとのへり

蔭涼山清松寺　同所榎町ゆあり京師妙心寺派の禪嵩わゝて昔ハ妙心寺より輪番本る釋迦如来を安も閑山ハ心印正傳禪師開基ハ素せゝとゝく心尼なり此尼ハ牧野兵部少輔政玄の女ゆゝく春日局と共ふ大将軍家昵近の侍女なるも當寺ふ御佛殿わるも芳心院御別當を務む此寺ハ芳心尼の開創なり御佛殿の前の池を鳳凰池と號く靈亀水ゝを芳心院の地ふあゝく寛永の頃ハ御茶の水ふ掬さゝわゝとゝあるも閑山塔ハ養春院是を預るゝく僧坊六宇経堂鐘楼庫裡浴室等巍々然とゝく軒を連ね輪奐ゝり（親王の真筆なり）三佛堂の額ふ天下蔭涼とあハ随自意院宮一品准后公啟法

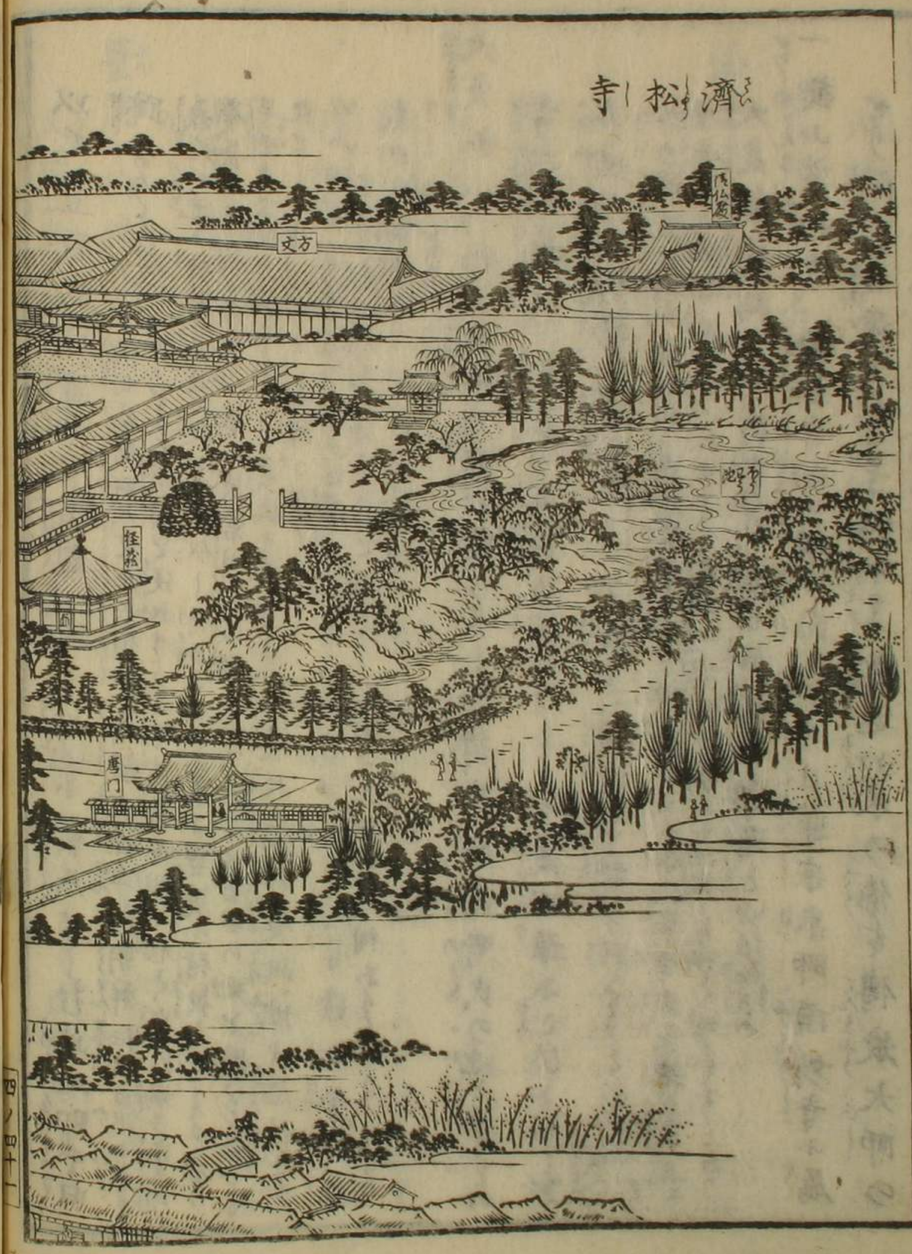
豊後小侍從大友義延舊館之地　同寺院を指く旧跡とを相傳ふ文禄二年大友義延朝鮮征伐の役ふ補ゝとゝも武備怠わゝを以て豊臣大閤罪ゝて當國へ迁ゝ此地ふ蟄居せゝむ此地即旧跡なりとのへり南向茶話云大友左兵衛督義統文禄年間朝鮮征伐の役ふ怠り領國を没収せゝ後常陸國ふ於て卒ゝ嫡子宗五郎義延此地ふ住む義延ハ從四位ふ叙ゝ侍從ふ任ゝ豊後小侍從と称ゝ慶長五年関ヶ原御一戦の後常州筑波郡ふ於て三千五百石の地を賜ゝ早世も又江戸鹿子とゝく草紙ふ義乗と記せゝハ義延のゝを謬る其後大橋立慶此地ふ居住せゝ望海無比竜慶高田大友のやゝきを賜ゝ地ふ天満宮の祠あゝ大橋記せり高田天満宮の詳なり

大友松　同所天神町の東ふ續きゝる御持筒組高野氏の地ふあゝと云昔大友義延の別荘の庭前の松あゝ後田禄ふ亡ひゝゝを其地の主旧跡を失ハむるを歎き若木を栽られゝとゝ或人云大友家の傳説ふ大友宗五郎義延武州へ迁る頃徒ひ来ゝの家日吉良傳左衛門基ゝ営作せゝ歟寄屋の前の松ゆゝく藏涼山清松寺の名も此松より号けゝとゝり

大友稲荷祠　同所ふあゝ是も義延の勧請といひ伝ふ

一樹山宗柏寺　清松寺向の横小路ふあり日蓮宗京師頂妙寺ふ属せり閑山ハ日意上人と号ゝ本る釋迦如来の像を傳教大師の

仏殿


濟松寺
方丈
仏殿
鐘楼
山門

作なり相伝に延暦年間傳教大師　桓武天皇の詔をまり鎮護國家除災延命の為に叡山に於て此靈像を彫造ありしと
なり然に元亀二年辛未織田信長公叡山を放火せし時仏閣
僧坊悉く灰燼す　時護持の人ありて此かるを取出して
恙なるを　後水尾帝深く佛乗に帰しまつるを以て是を拜
しまひ又宸翰を賜ひて釋迦年尼佛の号を添へ給ふ日意
師此かるを感得し當寺を開く安置しまつる
雲居山宗泰寺　同所辨財天町にあり　此地を土俗曹洞流の禪林に
して駒込の吉祥寺に属す本尊釋迦如来脇士は文殊普賢なり
開山を看栄禀阿和尚と号く總門の額弟一義は心越禪師の筆
中門の額雲居山は岡良弼の書佛殿の額宗泰寺の三字は崎
陽道栄の書禪堂の額は黄檗悦山なり　相伝に當寺開基を
牛込宮内少輔藤原勝行と称す　弘治元年後五位下に任じ法名を
参秀隠殿心外清雲庵主と号す

當寺に墳墓あり　鎮守府将軍武蔵守秀郷の後裔大胡重俊　上野國大胡
かこに住す　則大胡太郎と称せり　重行に建ひく此牛込に移り住す　土人牛込殿と
よへり　或人云家系に大胡太郎成行十代の孫同彦次郎重治上州大胡より武
州牛込に移り住　重行は宮内少輔と号し法名は雲居院殿実翁宗泰大庵主
と号す　天文十二年卒　北条氏康の麾下に属し武州牛込及今井
又當寺に墓あり　武人云其家系其余下總の堀切千葉等の地を領し牛
櫻田比々谷　日尾谷に作ると　永禄北条家の分限帳に江戸牛込比々谷本郷葛西の堀切等の地大胡氏
込に住す　領とあれとも今井千葉の両の名を載せ或人云牛込氏系譜に牛
其余高田落合関口小日向冨塚小石川の金杉市谷田安櫻田　天文十三年甲辰
朝草同金杉等の地名を所領の中に注し如とあり　按に朝草は浅草と云ふ
父重行の菩提を弔ふ為當寺を創建し寺田を寄附し父重行
の法号を採て寺の号に呼へと同二十四年乙卯從五位下に任す
其時氏康に告て大胡を改め其采邑の名の牛込をもて氏とせ　天正十八
年北条氏滅亡の後勝行の子勝重天正十九年辛卯始て　大神君に謁し後
幕下に属し當家に属しまつると　或人云勝行の子は俊重とかふ　慶長十五年始て三代大將軍を拜し
両説いつれか是なるか
大胡重行同勝行父子之墓　境内卯塔の中に一基の石碑に父子の法号
を刻せり或人云大高季明の書なりと

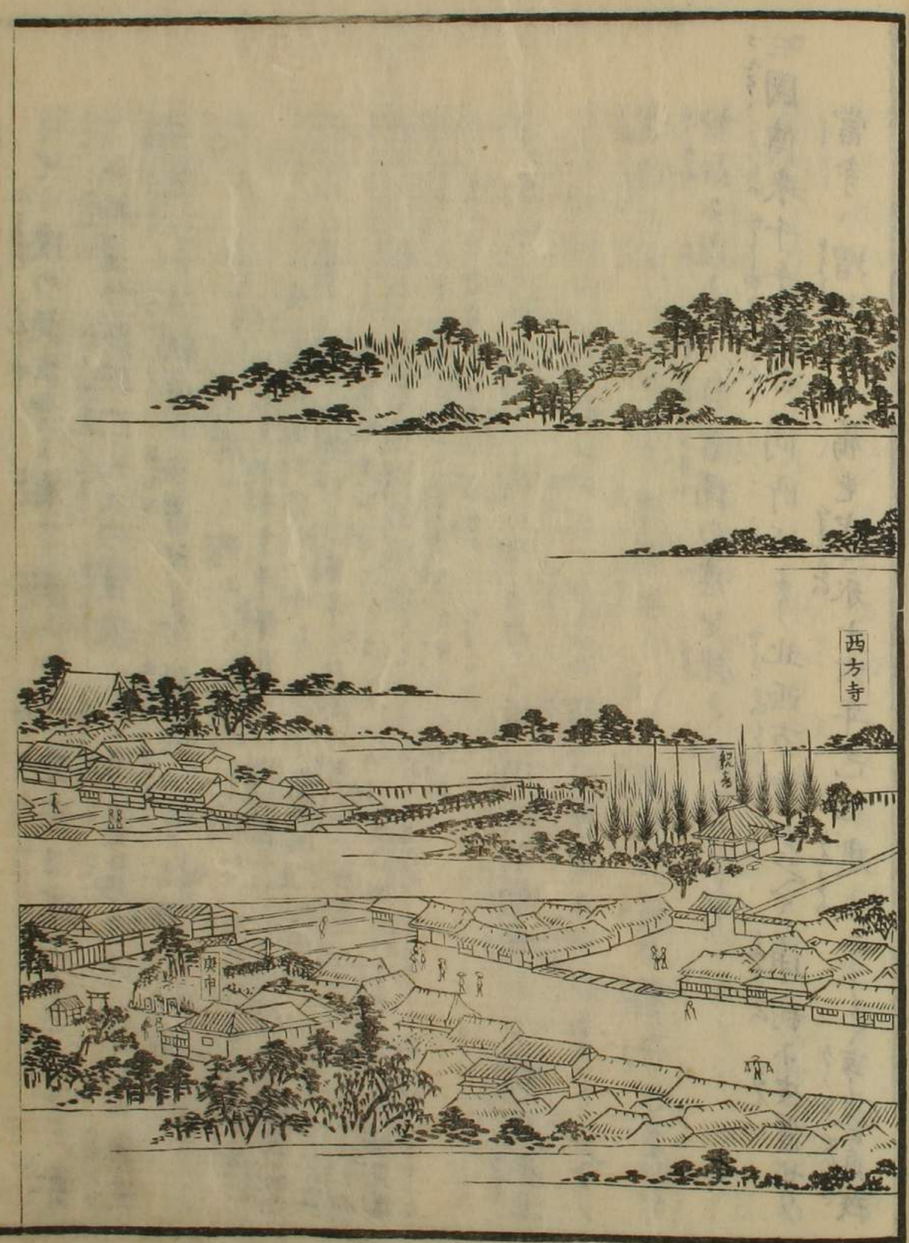
高田本松寺
願満祖師堂

否やとまどひ榮の梅閑山看來和尚殖られしとの事

三明山千手院　同所七軒寺町にあり　真言宗閑山八舜倚法印と号せ本尊千手観音の像ハ丈長八寸九分脇士多門持國の二天ふ赤栴檀にて造り毘首羯磨天の作なりと云ふ　往古越後國安巨山にあり天正年間豊大閤秀吉公柴田勝家と戰ふ及んで蒲生氏郷の臣殿池玄蕃といふ人是を感得せ既て元和年間蒲生家敗壞の後殿池ハ下總國佐倉の城主堀田家に仕ふ故あり〻富永氏某伯来し〻後當寺に安置し〻

正定山幸國寺　同所原町にあり日蓮宗小湊の誕生寺に属せ閑山せ日観上人と号ス當寺に安置の日蓮大士の像ハ世に布引の御影と称せり傳云文永七年庚午宗祖大士鎌倉に在し〻項房總の國郡数月疫癘流行せり〻に於て人民大士に救を求む乃大士

佛工をして自の像を造らしめ白布ゝ経題を書して手ゝ
掛ゆゝ嘱して曰く則是日蓮なりと云く依て此霊像を平地ゝ
移すゝ疫疾の患へ頻ゝ逃きるゝ故ゝ此霊像を小湊の誕生
寺ゝ安置したりゝ又宗門流布の為寛永七年庚午二月
十六日當寺ゝ移すゝまゝゝとゝ當寺ハ加藤肥後守清正
の開基ゝて宗祖の霊像ハ寒暖ゝ應ゝ衣服を改むゝ
池上ゝ同ゝきとゝ（故ゝ其衣服ハ年〻阿部氏某調進すゝあり）
神明宮 早稲田大田圃ゝあり 祭神天照春日八幡三座ゝ同所
赤城明神の別當等覚寺より兼帯ゝ祭礼ハ九月十六日ゝ鎮
座の年歴詳ゝゝとゝ（天和二年同所榎町より組林氏某の宅地ハ平旧地ゝ今大久番）
赤城明神舊地 同所田畔小川ゝ傍てゝ大胡氏初て赤城明神を
勧請せゝ地なり故ゝ祭礼の日ハ神輿を此地ゝ渡すゝ
本妙山感通寺 高田穴八幡の馬場下南の坂上ゝあり日蓮宗に


誓願寺
西方寺

誓願寺

して小倭の誕生寺より屬す開山を寂陽院日建上人と号す當
寺ハ安置の毘沙門天王の靈像ハ行基菩薩の作ゆゑく越後
國高田の日朝寺ハ安置せしを越後以將忠輝の御母君こゝよ
迁しゆゑなり

日蓮上人傳ハ宗祖上人弘むるの法華経の功德ハ
永仁十一年鎌倉より赦免あり佐渡國より越後高田
項を地より真言宗の一寺あり北寺の毘沙門天尤人と仰現しゆゑい宗
祖大士と導く寺より誘ひし宿せし既ハかゝるの御足泥土ハ穢れ
あるを寺僧吉祥是を奇とし直ハ大士の法水より帰し日朝改む越後國
高田の日朝寺これあり上杉謙信深く彼奥州米澤の城ハ
謙信天正六年ハ卒也依て後迁しまゝ當寺ハ安置しまるといへり

摩利支天の像ハ松樹の下ハあり頼朝卿の勸請ゆゑて頼義朝臣
の念持佛といひ伝ふ此地ハ往古の鎌倉海道の旧跡ありといへり
客殿の前ハ一松あり普聞松と称也法花弘通の精舍なりしを
妙經ハ因て名称普聞の意を採て名づくるなり

三國傳来千手觀音　同所坂より北西方寺といへる淨刹ハ安置せり
當寺ハ增上寺より屬也寛永十六年己巳建立ゆゑく亨誉貞義

和尚開山にて相傳ハ往古弘法大師唐土青龍寺の惠果阿
闍梨より授与せられし中印土の靈佛ありとへり大師帰朝の
後高野山の大塔ハ安置あり彼山麓ハ住る流水といへる沙門
感得しゆゑく武州浅草ハ移しゆゑ故ありゆゑく開山貞義和尚當
寺ハ迁しまるとなり故ハ三國傳来の称ありといへり

自樂居士墓　境内卵塔の地ハあり備前國の産ゆゑく齡を保つ既ハ百十
四歳なり常ハ壯年の人のゆゑく見ゆ文字を書ものを得さる
人ハ與へしとなり宝暦三年癸酉十二月三日ハ沒也
人ハ與へしとなり百歳の項より壽の一字を学ひ是を紙ハ書て

亀鶴山誓願寺　同北ハ隣る易行院と号ゆゑく淨土宗ゆゑく靈巖寺
ハ屬也本尊五智如来の像ハ谷長八尺開山水食本誉上人秋風誓願
和尚の作なり常念佛の道場ゆゑく清淨無塵の佛域なり當
寺昔ハ少しの庵室ゆゑく前ハ松樹四株を植く方位を定め
方松庵といひるとそ今四五十歩南の方道を隔て向ふの側ハ
庚申堂あり是則昔の方松庵の地なり

稲荷祠　境内ゐあり開山誓閑和尚ハもつく仏像を作りて常ゐ吹革を吹革祭をなせりとかたり今も堂の前ゐあり菊岡沾涼いへるあつぬ櫻の余風なり年こもりをもつく豊島郡と名村しとの髮なり附て云當寺境内ゐ横たゝれる小溝の流もをもつく豊島郡と茫原郡と堺とも當寺鐘の銘ゐもとゝ載りを挙こゝり

金川　同所穴八幡の前を早稲田の方へ流るゝ小川を云とゝり今ハ古川と唱へこゝり

水源ハ戸山御庭中より發せる而ゐり文明年間太田道灌遊獵の時急雨ゐ逢しハ此地ゆゝく昔ハ川の幅も廣くゝしとゝり或ハ蟹川ゐ作る

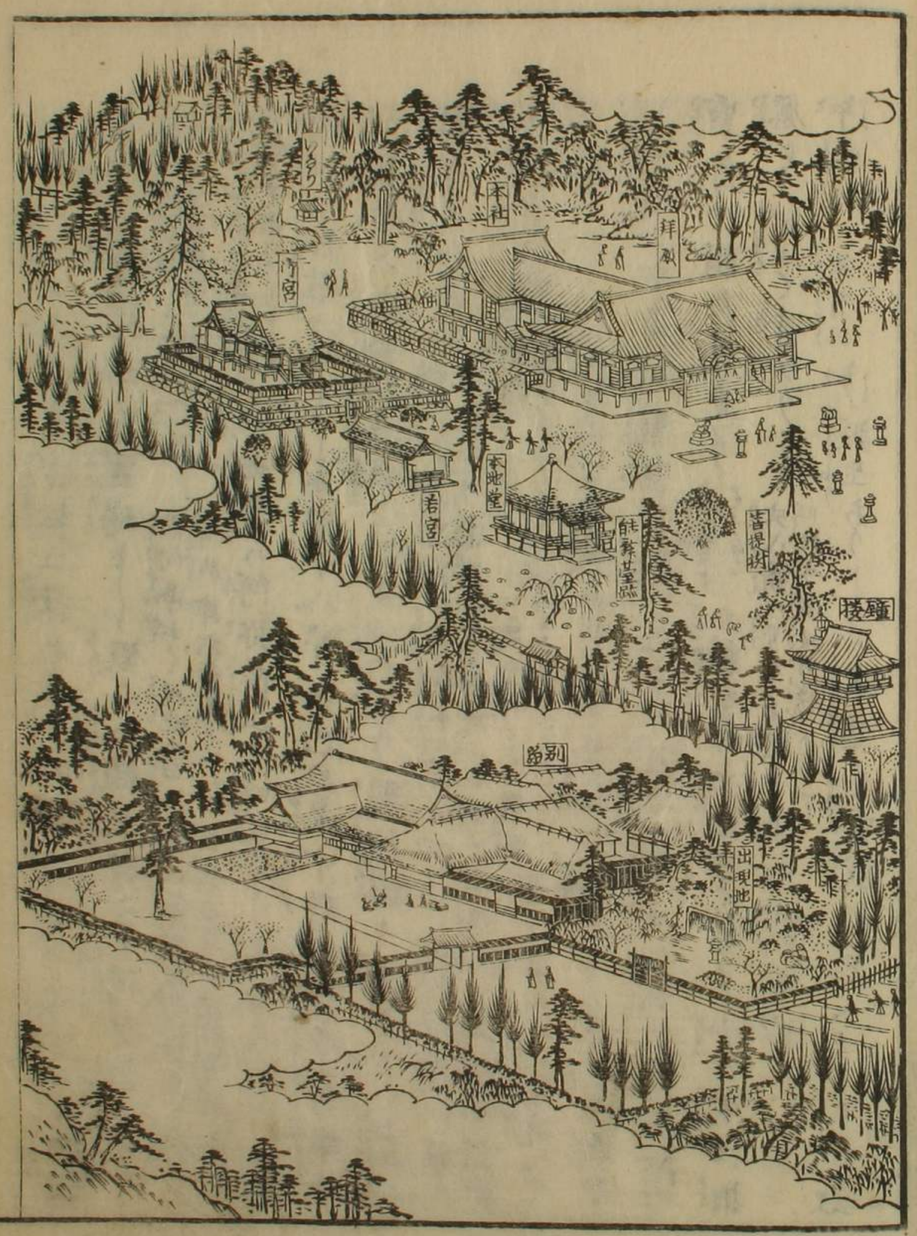
奈川又加能川とも称るとゝり

高田八幡宮　牛込の總鎮守ゆゝく高田ゆゝり世ゐ穴八幡此地を戸塚とゝゝり

と云別當ハ真言宗ゆゝく光松山放生會寺と号ゝ旧名ハ威盛院中之坊と唱へしと

祭礼ハ八月十五日ゆゝく放生會あり旅所ハ牛込神乐坂の中腰ゐ在り

社記云寛永十三年丙子御弓隊の長松平新五左衛尉源直次ゐ與力の輩射術練習の為此地ゐ的山を築立らる八幡宮ハ源家の宗廟ゆゝく弓箭の守護神なれハとて此地ゐ勧請せんゝを


拜殿
若宮
別殿
出現池

其二
光松
放生池

謀る此山に素より古松二株あり其頃山鳩来つて日々に此松の枝上に遊ぶを以て霊瑞とし假に八幡大神の小祠を営みて件の松樹を神木とす 南向亭云く此地ハ旧早稲田邑の地中島といへる此地に青柳津六兵衛といへる冨民あり往古北条家に仕へし士にて其人の持傳へし山林中にありしとそ 此地昔ハ阿弥陀山と呼来りしとなりされと其所以を知着なかりしに同十八年辛巳の夏中野宝仙寺秀雄法印の會下に威盛院良昌といへる沙門あり周防國の産にして山口八幡の氏人なり 幼くして毛利家の侍榎本氏某に仕へしが榎本氏没して後十九歳の年遁世して高野山に登り宝性院の法印春山の弟子となり一紀の行法をとげて三十一歳の時より諸國修行の志を発し其間さまざまの奇特をあらハせりといふ 依て此沙門を迎へて社僧となしむ 故に同年の秋八月三日草庵を結ばんとして山の腰を切開時にゆくりも川の霊嵓を得たりその嵓中石上に金銅の阿弥陀の霊像一躯たゝせたまへり 御長三寸 八幡宮の本地なりとて其功も山の号に相應せるを以て奇なりとせし 穴八幡の号ここに起まり其旧址今猶坂の傍にあり 又此日将軍家御令嗣 巖有公 御誕生ありしかハ衆益其霊威を尊る 江戸名所記に云 同年八月九日

社頭の繞リ一町四方に縄張して其地を開き本社をハ神木の松の本に近し八重垣を結まはしける其時加州大守数百の人歩を贈らしめて其地を築固めしむ依て日ならずして成就し同十四日遷宮の式を執行す松平新五左衛門尉其与力の人々を引供して的山の辺に幕を張式正の小的を建る神的ハ射法なれハとて小池の向某が子十二歳なりしか是を勤むと其後元禄年間今のごとく宮居を御造営ありて結構備れり 云云 南向亭茶話に 巖有公殊に當社を御崇敬ありて御宿願の事満足の後當社を營せしむ裏門ハ内藤豊前守曾賢堂ハ松平左近将監御手水垣ハ増山兵部少輔等これを寄進すとあり又江府神社略記及ひ和漢三才図會等の書に元禄年中桂昌院殿御再興ありしと云く

若宮八幡宮 本社の前左にあり

東照大権現 同所に並ひたまふ毎年四月十七日祭祀の人多し

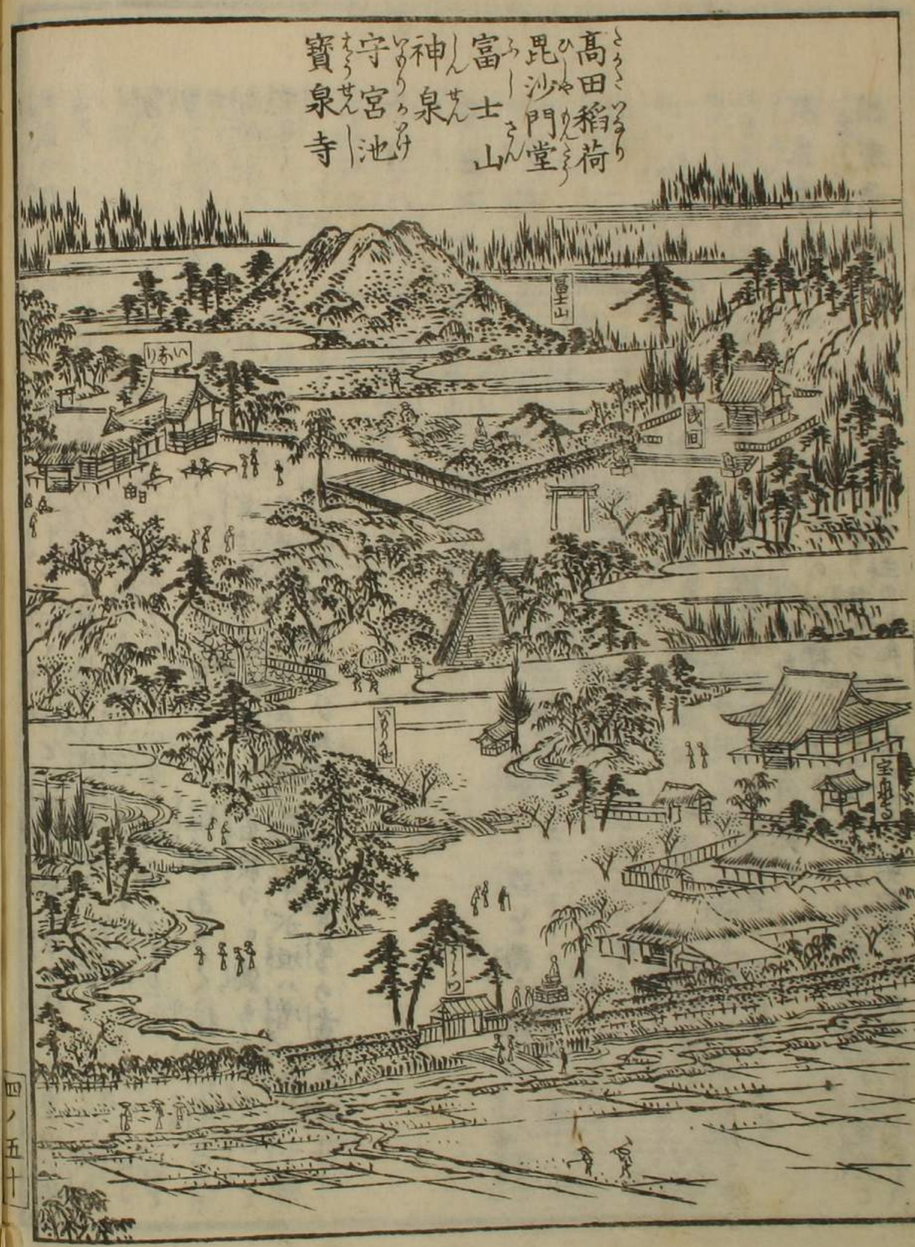
氷室明神祠 本社に相對す盛徳といへる二字を彫る額を掲く祭神大己貴命 元禄二年十二月二十二日牧村氏直良十六歳にして疱瘡を患ふ同三年正月二日金峯の住人渡辺氏是善霊夢の感ありて此神を祭る直良此神に祈願して平愈を同七年の頃始てここに鎮座せしむるといひ傳ふ

光松 別當寺と本社との間坂の支路にあり 昔の松ハ延享年間に枯れたりしとぞ今ある所の八後世殖継る善木なり 南向亭云く此地昔ハ松樹繁茂せし山林ゆへ其中に一株の松あり暗夜にハ折として瑞光を現を故に其樹を称して光り松と云とぞ又寛永十三年始て當社八幡宮勧請の頃此樹上に山鳩来り遊ひしと云云

放生池 石階の下にあり山の腰より清泉志たゝり切川実に石清水の名に應するの奇特といふへし

出現所 坂の半腹絶壁にそひてあり往古の霊嵓の旧址なり近頃迄其地に出現堂と號けて九品佛の中下品上生の阿弥陀如来の像を安置せし堂宇ありしか今ハ廃れ

裏門
門表


高田稲荷
毘沙門堂
富士山
神泉
守宮池
寶泉寺
富士山
四ノ五十

能舞臺址　本社の左の方ゆあり今廢を存するのみ寛延三年庚午三月觀世太夫一代能を奥行せし跡ありとかふ

抑當社の別當寺を光松山と號し神木の奇特ふかくてかつ

神と君との道直ゆゝく治る世代の濁りなく石清水の清き誓ひ

家もそなはれる殊更元祿の頃再奥ありしより和光の神

德日くゝ顯はれ昭然なり

高田稲荷明神社　同所八幡宮より右の方道路を隔てあり戸塚村の

産神と称す故ゆゑ戸塚稲荷とも唱へ本地佛聖觀世音ハ南都德一

大師の作なり相傳ふ當社の權輿ハ最久遠なりしゆゑ文亀元年辛

酉上杉治部少輔入道朝良南向亭靈夢よ依て宮居を再奥し

戸塚村の地を社領ゆゑ附せる朝奥當社ゆゑ古き棟札を藏せり文ゆゑ云く天文十九年二月二十九日牛込主膳時國再奥別當宝泉坊秀宝大工与左衛門同左衛門五郎とあり按ゆゑ牛込主膳時國の名いまゝ考へず上州大胡氏の後裔武州牛込ゆゑ住し天文二十四年氏を牛込ゆゑ改むるとかふり家紋ゆゑ牛込氏の頃ハいまゝ牛込氏ゆゑ改めしゝ時代を合せ考ふれハ大胡氏も天文十九年の頃ハいまゝ牛込氏ゆゑ改めしゝ時ゆゑ然れハ此ゆゑ時國とのハ自ら別の人ゆゑ狀他日訂正まつ

平後元祿十五年壬午四月靈告ありくゝ榎の控より

靈泉涌出す眼疾を患ふる者此靈水を以て洗ふにくゝ奇驗あり仍土俗當社をさゝく水稲荷とも称せり毎年二月初午日

奉射あり祭祀ハ九月九日なり

神泉　社前榎の控より湧出ありとかふり

毘沙門堂　同境内小高き丘の上ゆあり本尊毘沙門天王の靈像を慈覚大師の作ゆゑ武蔵守藤原秀郷の念持佛ありとかふり相傳ふ慈覚大師江州唐崎の濱ゆゑ至りて川の苗を拾ひ得ゆゑ内ゆゑ出長一寸八分の多門天の靈像あり大師随喜しゝく自是を念持佛とす仁壽年間田里下野國ゆゑ下り佐野の大慈寺ゆゑ入りゆゑ出長二尺五寸の多門天像を彫刻ありくゝ先の靈像を胎中ゆゑ竜めまゐらせ大慈寺ゆゑ安置ありしゝ天慶中武蔵守秀郷平將門を征伐の後此地ゆゑ移しくゝとかふり（紫の一本と冊ふゆゑ秀郷將門を退治せる時深く毘沙門天を念しゝに毘沙門天兜の上ゆゑ現ゝを自ら模し彫むとあり寺傳ゆゑ異かり）拜殿ゆゑ掲ゆゑ多聞天の額ハ長崎

道栄の筆なり其傍に朝日庵と云ありて眺望尤幽雅なり此地の時鳥は世に勝れて早く啼ゆゑに其名を得たり旗立桜も同じ堂前石燈篭の側にありて今は若木なり 或人いふ秀郷此所に旗を立しとも又は此地昔新田家陣営の旧址なる由云伝へて旗立桜曽掛の梅杯云るもありて稲荷の社前池の辺にありしが枯て後植つぎぬ 南向亭茶話に云ゆ旗立桜は桜の一種に帆立桜とて單六瓣のものあり中に花一片別に帆を立るごとくなるあり是を帆立桜といへり土人誤て旗を立るに似たるとて旗立桜と云ならはせり 船繋松も同じ堂後山の中腹にありしが是も今は枯たり 昔大将軍家此地に遊猟の頃此松の齢を問せらる寺僧其凡千年に及べる由答へ奉りければ千年の松と唱ふべき旨鈞命ありしとなり 船繋松のことは第五巻目日暮青雲寺の条下に詳なり 宇宮池も同じ山下にあり 水中蜥蜴多し 寛永の頃いりいり此池に遊ぶ人あり依て故に此名あり

禪英山寶泉寺

稲荷と毘沙門両社の別当寺にして天台宗東叡山に属す開創の年歴未考へ本尊薬師如来の像は傳教大師の作なり 或人云花洛鞍馬の薬師と同躰なりといへり 相傳ふ文亀元年辛酉上杉治部少輔朝良 或は朝興 霊夢を感じて後稲荷の宮居を再興し又當寺を創建して大檀那となる 禪英とは朝良の法号なりとぞ 其後天文十九年庚戌牛込

主膳時國といへる人宮社寺院ともに重修せしよし棟札に記せり 當寺に楠正成の兜と称するものあり裡に越前國豊原住人貞生作と彫付てありと云 いまた信否をしらす 常念佛堂は構の外にあり本尊阿弥陀佛の像は聖徳太子の作なりといへり 堂内に銅像の地蔵尊を安す

高田冨士山

稲荷宮の後にあり 巌石を畳むて其容を模擬す安永九年庚子に至り成就せしとなり 此地に住める冨士山の大先達藤四郎といへる者これを企てけりとぞ 毎歳六月十五日より同十八日まで山を開きて参詣をゆるす 山下に浅間宮を勧請してあり

宗良親王陣営舊址

寶泉寺の山林を指て其旧跡とす 後村上帝の正平七年壬辰新田家信濃宮宗良親王を供奉して武蔵野合戦ありし時の陣営の旧址なりといへり 宗良親王は後醍醐帝第三の皇子にして信濃の宮と申奉る

新葉集雑

あつまの方に久しく侍りてひたすらもののふの道にのみたつさはりつゝ征東将軍の宣旨なと下されしも思ひの外なる様におほえて

思ひきや手もふれさりし梓弓おきふし我身なれんものとは　宗良親王

おなし頃武蔵國へうちこえて小手指原といふ所にありけるにうちよせぬと聞えしかはいさみたる兵ともゝありしにつけても

君の為世のため何かおしからんすてゝかひある命なりせは　同

高田
天満宮
此辺ハ
藤花園
秋月
巧妙ハ
絶景